

社会福祉法人エンゼル福祉会

2024 年度事業報告書

(1) エンゼル福祉会運営状況

1 稼働率 (別紙1, 2を参照)

特養、GHなど入居系については安定した稼働率となっている。かなみの杜についても、現時点では98%の稼働となっており、通常稼働となっている。

在宅系のサービス、特に訪問介護、居宅介護支援については職員数に比例して年々稼働率及び給付件数は低下している。2事業についての収支は職員数によって大きく変化するが、収支バランスに大きな変化は無く、稼働(給付)に対する人件費率、経費率は一定している。

2024年度に好調であったのは短期入所事業(SS)と一部の通所介護事業(DS)となっている。SSは藤代のみ前年度比マイナスとなっているが稼働率はおおむね3施設共に安定している。DSにおいては藤代とかなみの杜が稼働を伸ばしている状況。特にかなみの杜に至っては、区内DSの閉鎖による利用者の受け皿となるべく準備した結果大きく利用者数を伸ばしている。小規模多機能型居宅介護(尾久の原)においても現在は定員通りの運営が継続出来ているためこのまま維持していく事に注力する。

2 事業別収入 (別紙3, 4を参照)

どの事業も稼働率を反映している収入となっておりその他大きな要因は無い。特養は報酬改定の影響から若干の収入増となっているが、全てのサービスで今後も稼働率に対するマネジメントは特に重要と捉えている。GH(尾久の原・あじさい)においては空床に対してはスムーズに入居案内が出来ている。

※(別紙5図表6) 特別養護老人ホーム黒字経営の全国平均サービス活動増減差額比率は従来型6.2% ユニット型8.5%。

昨年度の特別養護老人ホーム(短期含む)サービス活動増減差額比率を参考値として算出。

越谷なごみの郷 従来型、地域密着型=2.8%

藤代なごみの郷 従来型、小規模型 =6.6%

おたけの郷 ユニット型 =1.9%

かなみの杜 ユニット型 =-5.5%

※法人の特養事業における収益性の優先課題はかなみの杜空床率減少

3 法人収支 (別紙6参照)

法人全体で言えば前年度比4.2%の増収となつてはいるが、報酬改定、GHあじさい分、かなみの杜の稼働向上が大きな理由となっており、既存事業自体に大きな変化はないと捉えている。各事業での稼働を注視していく事に変わりはないが、施設全体で協力し効率よく運営することが重要である。

3.1 法人指標

- ① サービス活動増減差額比率(収益性) = **-3.6** 全国 1.7% 黒字施設 4.7%
② 経常増減差額率(収益性) = **-2.4** 全国 1.8% " 4.9% (別紙6図表3・4)

(マイナス値は将来的に財務状況の悪化を危惧し経営の安定性を損なう恐れ)

- ③ 事業活動資金収支差額率 (資金繰) = **1.2%** (2期連続マイナスに注意) 昨年度 4.4
- ④ 流動比率 (短期安定性) = **183%** (100%以下注意 200%以上が優良)
- ⑤ 純資産比率 (長期持続性) = **74.9%** (33%以上目安)
- ⑥ 人件費率 (合理性) = **65.7%** (過剰人員にならないように注意)
- ⑦ 固定資産老朽化率 (効率性) = **49.24%** (30~60 中程度の使用年数修繕計画検討)
- ⑧ 自己収益比率 (経営自立性) = **98.7%** (30%以上で高い自立性かつ健全経営)

経営分析								
令和 6年 4月 1日から令和 7年 3月31日まで								
社会福祉法人エンゼル福祉会 000 社会福祉事業								
分 析 項 目	単位	越谷なごみの郷	鹿代なごみの郷	おたけの郷	渋谷区かなみの杜・	尾久のはらっぱ	グループホームあじさ	法人全体
■収益性								
1法人当たり従事者数	人	98.2	82.4	90.5	54.0	29.7	0.0	
サービス活動収益に対する サービス活動費用の割合								
人件費	%	63.0	55.2	61.5	72.0	71.6	65.8	64.5
経費 (事業費+事務費)	%	31.3	34.7	32.2	41.6	21.6	31.4	
減価償却費	%	4.5	5.3	1.8	1.2	7.9	0.3	
その他	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
計	%	98.8	95.3	95.5	114.9	101.3	97.6	
サービス活動収益対支払利息 率	%	0.0	0.0	0.3	0.0	0.6	0.0	
サービス活動収益対サービス 活動増減差額比率	%	1.1	4.6	4.4	-14.9	-1.3	2.3	-3.5
経常増減差額率	%	1.8	4.8	7.1	-14.3	-1.2	2.3	-2.4
事業活動資金収支差額率	%	6.3	10.1	8.6	-12.8	6.6	2.6	1.2
従事者1人当たりサービス活 動収益	千円	8,137	8,206	9,055	9,405	6,771	0	
労働生産性	千円	5,218	4,915	5,971	5,366	4,762	0	
従事者1人当たり人件費	千円	5,127	4,532	5,572	6,773	4,851	0	
労働分配率	%	98.2	92.2	93.3	126.2	101.8	96.6	

※かなみの杜における収益性及び資金繰りに関する指標数値がマイナスとなっている。
2, 事業別収支でも述べたがかなみ特養におけるサービス活動増減差額比率は-5.5%であり、その他の要因は通所介護事業における稼働率が大きく影響している。

4. 2025 年度

2023 年度社会福祉経営状況調査によると全国の介護主体である社会福祉法人の 40%以上が赤字経営という中、過去数年間の新型コロナによる影響やかなみの杜への補填が当法人の財務状況悪化の要因となっている現状があるため

- ① かなみの杜における現在の人員配置及び稼働性の推移を安定してマネジメントし現状を継続させることで、①②③共に改善を図り収益性と資金繰り能力を向上させる。
- ② 全施設における費用面での改善として人件費 (派遣職員費)・業務委託費 (外国人管理・施設清掃)・求人費 (マイナビ等採用サイト、採用課金型求人)・雑費 (人材紹介費) の見直し適正化を図る。

5. 人材確保(別紙7、8参)

法人全体の離職率は19.2%となっており全産業の離職率15.4%より高い数値となっている。日本全体の介護職員（訪問介護員・介護職員）の離職率は13.1%（令和5年度介護労働実態調査）と過去最低となっておりこれと比較しても高い数値である。

エンゼル福祉会における2024年度入職者数は124名、退職者数は81名となっており入職者数が43名上回っており純増とはなっている。退職者の在職期間などを見てみると、2024年度は30名が年内採用、年内退職した形となっており在職期間は短い。

人員不足から採用基準については緩和している状況であり、一定程度ミスマッチが起こっていると考察している。また、人材紹介会社経由での採用者の定着率は他の媒体からの採用者と比較しても極めて低く、今後の課題ととらえている。

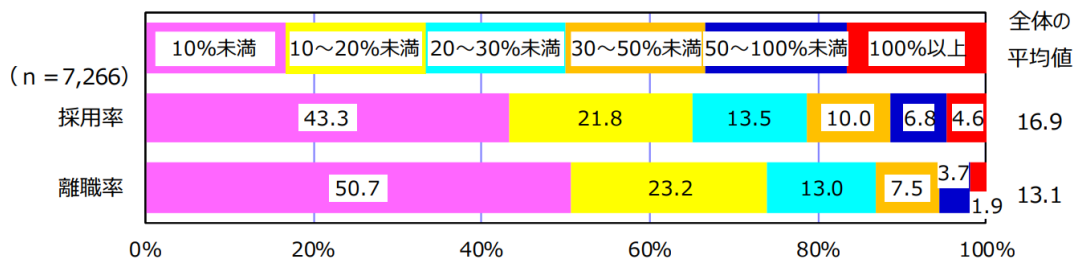
一定程度のミスマッチを許容していく事で離職率は高くなる傾向があるが、本来のマッチングは採用後の判断と考えており継続して採用活動を行いつつ、ミスマッチを避けていくための広報活動や面接採用技術の強化も必要と捉えている。

※重要な懸念事項としては藤代なごみの郷の採用超過率が離職超過に転換している部分である。離職者数が採用者数を超過している現象について早急に改善する必要がある。

(図表5) 2022・2023年度 採用と離職の状況（主たる事業別・同一法人）

区分		社会福祉法人全体 n=7,433			介護主体法人 n=2,886			保育主体法人 n=2,897			障害主体法人 n=1,223		
		2022	2023	差 2023 -2022	2022	2023	差 2023 -2022	2022	2023	差 2023 -2022	2022	2023	差 2023 -2022
採用率	%	14.3	14.5	0.2	15.2	15.6	0.4	13.8	13.7	△0.1	12.3	12.3	0.0
うち新卒	%	2.0	1.9	△0.1	1.3	1.2	△0.1	3.8	3.7	△0.1	1.7	1.5	△0.2
うち中途	%	12.2	12.6	0.3	13.9	14.4	0.5	9.9	10.0	0.0	10.6	10.8	0.2
新卒採用なし	%	44.5	46.2	1.7	50.0	52.6	2.5	35.8	36.0	0.2	57.6	60.5	2.9
中途採用なし	%	9.0	7.6	△1.4	1.1	1.0	△0.1	17.8	14.5	△3.3	6.6	6.7	0.1
離職率	%	14.0	14.3	0.3	15.3	15.6	0.3	12.7	13.2	0.6	12.1	12.1	0.0
うち就職後3年未満	%	7.6	7.5	△0.1	8.7	8.4	△0.2	6.7	6.9	0.2	5.9	5.8	△0.1
うち就職後3年以上	%	6.1	6.5	0.4	6.3	6.8	0.5	5.7	6.0	0.3	5.7	5.9	0.2
うち定年退職	%	0.3	0.3	0.0	0.3	0.3	0.0	0.3	0.3	0.0	0.4	0.4	0.0

図表 1-1-1 2職種の採用率と離職率の分布と平均採用・離職率



(注1) 採用率 = 「1年間の採用者数」÷ 2022年10月1日時点の在籍者数 × 100

離職率 = 「1年間の離職者数」÷ 2022年10月1日時点の在籍者数 × 100

2022年10月1日時点の在籍者数 = 「2023年10月1日時点の在籍者数」 - 「1年間の採用者数」 + 「1年間の離職者数」

※かぎカッコつきの項目はアンケートで回答を求めているデータ。かぎカッコ無しの項目は計算により算出したデータ。

(注2) 2職種計の「回答事業所数」は訪問介護員、または介護職員のいる事業所の数。以下同。

(2) 拠点別の状況

1. 人材採用

① 越谷なごみの郷

求人媒体の定期的な更新や SNS を有効活用した人材採用及び、効果的な面談・面接を実施し、職員採用に繋げていき、また、入職してからの体制、職員同士の環境を整備し人材定着も合わせて実施する事を人材雇用の基本的な考え方としておこなってきました。新規卒業者の採用については、県内専門学校・高等学校へ訪問を実施する予定でしたが、2024 年度については、数校のみの訪問となっています。また、WEB 求人媒体を通じてインターンシップも組み入れ、採用選考までのミスマッチを防ぐ取り組みをはじめた 1 年でもありましたが 0 件となっています。

看護学校生の実習生については、感染対策を講じて受け入れを再開しました。

② 藤代なごみの郷

- 2024 年度新規卒業者 2 名の採用。(高卒 1 名、専門卒以上 1 名)を目標にあげたが、1 名のみの採用となった。その 1 名に関しては実習に来た学生の為、実習先を就職先に選ぶ学生は多いとため実習生の受け入れはやはり重要である。今後も実習生を受け入れていく。また、実習中の指導者や施設長、職員のかかわりは重要となってくるため、受け入れ態勢を整えていく。
- 特別養護老人ホーム(短期入所含)：退職者 13 名、入職者 11 名と退職者に対しての入職者の補充が出来ていない。紹介に頼らざるを得ない状況は変わらず、紹介が多くなっている。紹介会社を使って入職した職員の離職率は看護師 100%、介護は特定技能も入れると 22%(9 人中 2 名退職)、と高く看護師に関しては派遣の定着率も低い傾向にある。そのため、新たな職員を受け入れる体制、指導方法に関しては一つ一つ丁寧に対応し離職防止に注力する必要がある。

③ おたけの郷

- 2024 年度は人材紹介を含めると 20 社を活用。うち無償型(ハローワークやホームページ等)を 5 媒体。その他は採用課金型としコスト削減に努めてきた。
- 外国人技能実習生
2024 年度は 3 名の技能実習生が入国～実勤務となった。グループとして N3 の試験合格は必須となるため、日本語の勉強は定期的に行ってきた。また、日本での生活で不安を感じる事がないう、勤務開始後しばらくは定期的に自宅への訪問を行い日常生活における心配事などの聞き取りを実施。体調を崩した際は医療機関への付き添いなども行いながら、仕事だけではなく日常生活全般において支援を行ってきた。
- 採用パンフレット及び求人票については、グループとして関東圏・東北県の高等学校や専門学校に送付を行った。近隣高校には直接伺い、少しずつ関係も築けてきていると実感している。2024 年度中には 1 名の新規卒業者の採用が決定となり、2025 年 4 月より勤務を開始している。

④ かなみの杜

職員数については、2024 年度は 23 名入職し 13 名退職。10 名増加となった。

採用について、インターネット媒体による応募が多かったが、ハローワーク、ホームページ、職員紹介など直接面接を申し込みされる方も多くみられた。2025 年度は、正規職員は不足分の採用と非常勤採用を積極的に採用していく方向性

2. 離職対策

① 越谷なごみの郷

2024 年度の離職率は若干前年度を下回る結果となりましたが、入社後 1 年未満の退職者が 8 名と退職者の半数を占めています。また、当施設の離職率は 6 年前(離職率 22%)のピークを境に減少傾向にありますが、自己都合や転職による退職が依然として上位を占めている結果となっています。入職した際は、介護業界や当法人に対して期待し希望を持って入職しましたが、それとは反してやりがいやモチベーションを保てずに多職種や他同業に転職してしまうケースが多くあります。今後の課題としては、3 ヶ月未満の早期退職者が 5 名出ているので、OJT のシステムを改めて見直し、定期面談を実施し定着率を高めていきます。

② おたけの郷

前年度と比較し減少。OJT システムの強化、研修受講の推奨などが減少に繋がったと感じている。今後も定着→育成の流れをしっかりと確立し、安定した運営を目指していきたい。

③ かなみの杜

- 2024 年度離職者数は 13 名。(2023 年 36 名) 退職者は 2023 年度と比較して減少した。減少した理由として、新規入職者に対して、適切に OJT 指導が実施できるよう、おたけの郷へ体験的な研修を実施した。3 か月間の OJT システムが活用できるよう研修録の使用方法、面談の機会等を増やした。退職者は減少傾向にあるため、一定の効果が出たと考えている。引き続き、OJT 指導を適切に実施していく。
- 2023 年度週休 3 日制が理由に退職した職員が一定数いたことから、週休 2 日制のフロアを 1 フロア導入した。結果として、10 時間勤務が身体上、私生活上合わない等を理由に退職したい旨の職員が 2 名いたが、週休 2 日制のフロアに異動し継続して勤務が出来ている。現状、1 フロアのための導入であるが、職員の話を含み取りながら他フロア導入も検討をしていく。
- 週 1 回月曜日 9 時より各フロア・部署がオンラインにて集まり施設からの伝達事項やフロアの悩み事、事故の共有をする時間を設けた。また、フロア会議・各委員会も適切に開催できている。

④ 尾久のはらっぱ

2024 年度は離職率が高い状況である（介護職 38.5%）。離職理由の検証を実施し、入職後のミスマッチを防ぎ職員定着に注力する。

3. 稼働率

① 越谷なごみの郷

入院日数の減少に対して適切な口腔ケアの実施・早期体調不良の発見、適切な健康管理を実施し、協力医療機関連携とは、情報共有や受診対応も早期に行ってきましたが、2024 年度入院日数が増加した主な要因としては、8 月～9 月・12 月～2 月に新型コロナウイルス感染症の罹患者が 50 名以上発生した事例があり、その後の後遺症とし食欲不振になるケースが多く見られ長期入院を余儀なくされたケースが目立ちました。肺炎による入院者も多くは新型コロナウイルスの影響が大きく作用しています。

② 藤代なごみの郷

90 床稼働率目標 98%以上 → 実績 96.6%

入院に対する目標 総日数 700 日以内 → 472 日

③ おたけの郷

空床平均日数が-2.0 日となり減少したものの未だに高い数値を示している。稼働率としては前年度比-1.2%となった。入院日数は前年度比+654 日となっており、新型コロナウイルスによる入院日数の増加、また下半期に流行した感染性胃腸炎の影響も受けた形となっている。

年間稼働率目標 97% → 実績 94.7%

入院総日数 実績 1096 日（+654 日）

空室日数月平均 実績 18.2 日（-2）

（）内は前年比

④ かなみの杜

● 年間目標稼働率 93.6% → 実績 87.1%

2024 年 9 月にご案内できていないユニットがあったが、人員の体制が整ったため入居者をご案内した。すべてのユニットに入居者をご案内する形となったが退所が多く（入院から医療的処置が多く療養型へ等）入所が追い付かない状態になり目標稼働率に届かなかった。2025 年 4 月現在、空床は 1 床となっており、2025 年度は目標稼働率達成に向けて動いている。

4. 事故

① 越谷なごみの郷

ルール違反による服薬事故、ダブルチェック未実施による服薬事故を 0 件の目標を立て前年度

より減少する結果になり、ご利用者を間違えての誤薬は0件となりました。しかし落薬や与薬忘れが薬事故の大半を占めています。落薬の原因は飲み込み最終確認の怠り、予約忘れは職員間の情報共有が確実に行われていない為に発生した事故です。

② 藤代なごみの郷

- 薬の事故防止施設全体での薬のインシデントは7件発生（SS1件、従来型2件、ユニット4件）内訳は落薬2件、誤薬4件、与薬忘れ1件。落薬以外はマニュアル通りに実施していないことで発生しているため、マニュアルを徹底するようにその都度、または定期的に伝えるようにしているが防ぐことが出来なかった。
- 転倒からの骨折事故0件。転倒を繰り返される方で何度も対策を講じてきたが防ぐことが出来ず、1件発生してしまった。記録を細かく書くことで下肢筋力の低下や認知機能の低下などを早い段階でキャッチし、情報を共有。福祉用具を導入したり機能訓練を強化することで防いだ。

③ かなみの杜

2024年度事故件数200件。内訳は上表通り。転倒事故が一番多く、続いて外傷の事故が多く発生した。事故防止委員会を中心に、転倒・転落・ずり落ちに関して、対策などに注力してきたが件数が減少するまでつながらなかった。2025年度は事故発生から検討会を実施し、事故検証・対策立案に施設全体で取り組んでいく。

	2024平均稼働率						平均稼働率前年度比				
	越谷	藤代	おたけ	かなみ	尾久	あじさい	越谷	藤代	おたけ	かなみ	尾久
特養	95.37%	95.12%	94.66%	88.73%			-0.07%	-0.45%	-1.42%	1.68%	
地域密着型特養	95.43%						-0.82%				
小規模型特養		98.27%						2.44%			
SS	112.67%	103.78%					12.80%	-5.03%			
ユニットSS	104.85%		82.39%				2.85%		6.66%		
従来型DS	63.23%	80.80%		52.29%			3.51%	4.13%		6.12%	
認知症対応型DS	33.93%			14.76%			4.22%			0.69%	
通所サービスA				14.19%						0.30%	
HST(身体時間数)	191.50	89.91					-36.09	11.57			
HST(生活時間数)	59.93	112.51					-19.84	-11.48			
HST(訪問介護相当時間数)	46.28	94.39					-5.12	8.31			
HST(障害身体時間数)	81.42						7.96				
HST(障害生活時間数)	115.04						16.59				
HST(移動支援時間数)	7.46						1.32				
小規模多機能型居宅介護					99.03%						15.81%
認知症対応型共同生活支援					99.87%	93.08%					1.48%
居宅(給付件数)	100.67	96.33	89.33	30.25			-24.52	-1.76	-2.67	1.07	
居宅(予防等件数)	16.00	28.17	20.92	6.25			-3.73	4.62	-2.99	-0.84	
居宅(認定調査)	2.25	4.92	1.17	14.92			-3.84	-1.36	0.00	-1.36	

	越谷					藤代					おたけ					かなみ					尾久				
	2022	2023	2024	前々年比較	前年比較	2022	2023	2024	前々年比較	前年比較	2022	2023	2024	前々年比較	前年比較	2022	2023	2024	前々年比較	前年比較	2022	2023	2024	前々年比較	前年比較
特養	97.8%	95.4%	95.4%	-2.4%	-0.1%	93.9%	95.6%	95.1%	1.2%	-0.4%	96.2%	96.1%	94.7%	-1.6%	-1.4%	78.3%	87.0%	88.7%	10.4%	1.7%					
地域密着型特養	96.0%	96.3%	95.4%	-0.5%	-0.8%																				
小規模型特養						95.0%	95.8%	98.3%	3.3%	2.4%															
SS	99.2%	99.9%	112.7%	13.4%	12.8%	103.1%	108.8%	103.8%	0.7%	-5.0%															
ユニットSS	88.7%	102.0%	104.9%	16.1%	2.9%						66.9%	75.7%	82.4%	15.5%	6.7%										
従来型DS	56.0%	59.7%	63.2%	7.2%	3.5%	72.3%	76.7%	80.8%	8.6%	4.1%						28.9%	46.2%	52.3%	23.3%	6.1%					
地域密着型DS	45.6%	29.7%	33.9%	-11.7%	4.2%											7.0%	14.1%	14.8%	7.7%	0.7%					
通所サービスA																11.5%	13.9%	14.2%	2.7%	0.3%					
HST(身体時間数)	228.6	227.6	191.5	-37.1	-36.1	91.8	78.3	89.9	-1.9	11.6															
HST(生活時間数)	109.5	79.8	59.9	-49.6	-19.8	148.6	124.0	112.5	-36.1	-11.5															
HST(訪問介護相当時間数)	45.3	51.4	46.3	1.0	-5.1	105.6	86.1	94.4	-11.2	8.3															
HST(障害身体時間数)	75.2	73.5	81.4	6.2	8.0																				
HST(障害生活時間数)	103.9	98.5	115.0	11.1	16.6																				
HST(移動支援時間数)	8.3	6.1	7.5	-0.8	1.3																				
小規模多機能型居宅介護																					62.3%	83.2%	99.0%	36.7%	15.8%
認知症対応型共同生活支援																					96.9%	98.4%	99.9%	3.0%	1.5%
居宅(給付件数)	149.6	125.2	100.7	-48.9	-24.5	92.8	98.1	96.3	3.5	-1.8	91.8	92.0	89.3	-2.5	-2.7	14.4	29.2	30.3	15.9	1.1					
居宅(予防等件数)	30.3	19.7	16.0	-14.3	-3.7	32.1	23.5	28.2	-3.9	4.6	26.4	23.9	20.9	-5.5	-3.0	4.4	7.1	6.3	1.9	-0.8					
居宅(認定調査)	3.6	6.1	2.3	-1.3	-3.8	4.6	6.3	4.9	0.3	-1.4	1.9	0.0	1.2	-0.8	1.2	5.6	16.3	14.9	9.3	-1.4					

累計						
	越谷	藤代	おたけ	かなみ	尾久	あじさい
特養	2024 366,591,832	231,027,685	694,811,568	393,611,425		
	2023 355,077,570	226,504,726	676,785,153	377,576,059		
	差額 11,514,262	4,522,959	18,026,415	16,035,366		
地域密着型特養	2024 147,422,339	0	0	0		
	2023 148,678,397	0	0	0		
	差額 -1,256,058	0	0	0		
小規模型特養	2024 0	209,017,093	0	0		
	2023 0	199,310,155	0	0		
	差額 0	9,706,938	0	0		
SS	2024 77,553,880	97,151,008	0	0		
	2023 68,395,604	101,345,472	0	0		
	差額 9,158,276	-4,194,464	0	0		
ユニットSS	2024 49,042,916	0	90,333,258	0		
	2023 47,658,463	0	81,471,576	0		
	差額 1,384,453	0	8,861,682	0		
従来型DS	2024 65,366,003	67,835,132	0	53,202,958		
	2023 58,390,167	64,733,699	0	47,171,272		
	差額 6,975,836	3,101,433	0	6,031,686		
地域密着型DS	2024 18,386,505	0	0	8,591,218		
	2023 15,601,613	0	0	8,525,212		
	差額 2,784,892	0	0	66,006		
通所サービスA	2024 0	0	0	4,515,384		
	2023 0	0	0	4,420,824		
	差額 0	0	0	94,560		
HST	2024 17,314,545	17,133,770	0	0		
	2023 20,194,346	16,495,879	0	0		
	差額 -2,879,801	637,891	0	0		
小多機	2024 0	0	0	0	92,976,791	
	2023 0	0	0	0	79,099,172	
	差額 0	0	0	0	13,877,619	
GH	2024 0	0	0	0	101,672,133	14,131,443
	2023 0	0	0	0	99,996,872	
	差額 0	0	0	0	1,675,261	
居宅	2024 15,699,738	16,521,775	15,853,475	6,180,884		
	2023 19,931,272	16,479,422	15,898,137	6,201,023		
	差額 -4,231,534	42,353	-44,662	-20,139		
包括	2024 26,418,082	30,856,004	0	0		
	2023 26,278,971	38,763,582	0	0		
	差額 139,111	-7,907,578	0	0		
障害総合事業	2024 9,780,482	0	0	0		
	2023 8,677,398	0	0	0		
	差額 1,103,084	0	0	0		
配食	2024 0	4,205,760	0	0		
	2023 0	3,722,875	0	0		
	差額 0	482,885	0	0		
総計	2024 793,576,322	673,748,227	800,998,301	461,586,485	194,648,924	14,131,443
	2023 768,883,801	667,355,810	774,154,866	443,894,390	179,096,044	0
	差額 24,692,521	6,392,417	26,843,435	17,692,095	15,552,880	14,131,443

第二号第三様式

社会福祉事業 事業活動内訳表

(自) 2024年 4月 1日 (至) 2025年 3月31日

社会福祉法人エンゼル福祉会

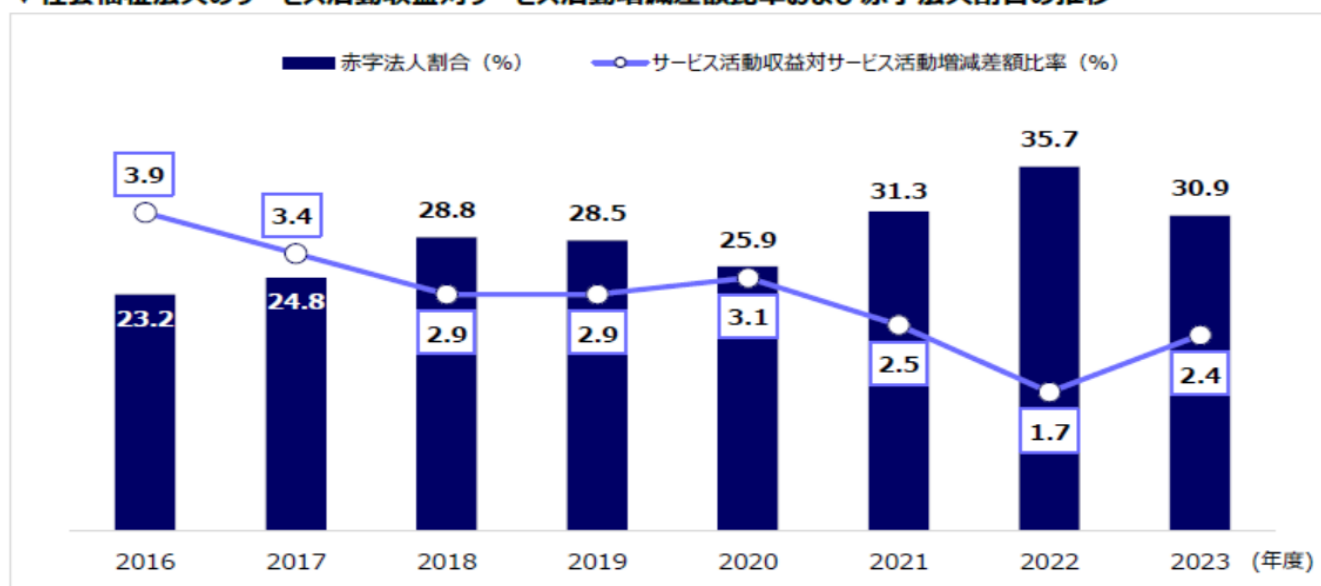
(単位：円)

勘定科目	越谷なごみの郷	藤代なごみの郷	おたけの郷	渋谷区かなみの杜・渋谷	尾久のはらっぱ	グループホーム あじさい	事業区分合計
サービス活動増減の部							
収益							
介護保険事業収益	765,114,136	648,318,353	819,530,900	508,266,620	201,107,640	14,131,443	2,956,469,092
老人福祉事業収益	0	4,203,680	0	0	0	0	4,203,680
障害福祉サービス等事業収益	9,816,898	0	0	0	0	0	9,816,898
地域包括事業収益	23,200,000	23,183,043	0	0	0	0	46,383,043
経常経費寄附金収益	978,296	520,000	0	0	0	0	1,498,296
サービス活動収益計(1)	799,109,330	676,225,076	819,530,900	508,266,620	201,107,640	14,131,443	3,018,371,009
費用							
人件費	503,691,280	373,447,769	504,351,619	365,926,174	144,199,460	9,311,189	1,900,927,491
事業費	132,321,316	115,424,381	129,580,729	99,277,361	22,537,917	1,708,188	500,849,892
事務費	117,896,658	119,871,345	134,510,990	112,217,310	21,022,522	2,737,031	508,255,856
利用者負担軽減額	29,429	0	80,522	5,180	0	0	115,131
減価償却費	56,017,947	47,334,014	62,640,896	7,137,365	26,215,742	49,212	199,395,176
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 19,610,711	△ 11,425,836	△ 46,487,885	0	△ 10,163,724	0	△ 87,688,156
サービス活動費用計(2)	790,345,919	644,651,673	784,676,871	584,563,390	203,811,917	13,805,620	3,021,855,390
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	8,763,411	31,573,403	34,854,029	△ 76,296,770	△ 2,704,277	325,823	△ 3,484,381
サービス活動外増減の部							
収益							
借入金利息補助金収益	0	0	2,569,906	0	830,808	0	3,400,714
受取利息配当金収益	10,507	3,763	44,963	12,232	4,524	711	76,700
その他のサービス活動外収益	8,178,877	3,856,365	22,947,672	4,953,899	656,350	0	40,593,163
サービス活動外収益計(4)	8,189,384	3,860,128	25,562,541	4,966,131	1,491,682	711	44,070,577
費用							
支払利息	529,098	334,653	2,473,726	0	1,389,272	0	4,726,749
その他のサービス活動外費用	1,847,802	2,073,853	922,251	1,647,206	0	0	6,491,112
サービス活動外費用計(5)	2,376,900	2,408,506	3,395,977	1,647,206	1,389,272	0	11,217,861
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	5,812,484	1,451,622	22,166,564	3,318,925	102,410	711	32,852,716
経常増減差額(7)=(3)+(6)	14,575,895	33,025,025	57,020,593	△ 72,977,845	△ 2,601,867	326,534	29,368,335

(図表 6) 2023 年度 黒字・赤字別 特養の経営状況

指標	従来型			ユニット型		
	黒字 (n=1,094)	赤字 (n=794)	差(赤字 -黒字)	黒字 (n=2,458)	赤字 (n=1,110)	差(赤字 -黒字)
定員数 (特養入所) (人)	72.9	64.8	△ 8.1	62.8	50.9	△ 11.9
定員数 (短期入所) (人)	13.3	12.6	△ 0.7	14.1	12.6	△ 1.5
利用率 (特養入所) (%)	93.8	91.9	△ 1.9	94.1	90.0	△ 4.1
利用率 (短期入所) (%)	82.7	73.4	△ 9.2	78.7	67.2	△ 11.5
要介護度 (特養入所) —	3.99	3.97	△ 0.01	3.90	3.90	△ 0.00
利用者単価 (円)	12,811	12,613	△ 198	14,980	14,801	△ 178
利用者 10 人当たり従事者数 (人)	6.35	6.96	0.61	7.50	8.56	1.07
人件費率 (%)	61.8	70.0	8.2	60.4	69.2	8.9
経費率 (%)	27.9	30.6	2.7	24.8	27.7	2.9
うち水道光熱費率 (%)	5.1	5.5	0.4	4.5	5.1	0.6
減価償却費率 (%)	3.9	5.1	1.2	6.2	8.5	2.3
サービス活動増減差額比率 (%)	6.2	△ 5.9	△ 12.1	8.5	△ 5.6	△ 14.1
従事者 1 人当たりサービス活動収益 (千円)	7,379	6,633	△ 746	7,311	6,325	△ 985
従事者 1 人当たり人件費 (千円)	4,561	4,646	85	4,413	4,379	△ 34

▼ 社会福祉法人のサービス活動収益対サービス活動増減差額比率および赤字法人割合の推移



(図表3) 2022・2023年度 社会福祉法人の経営状況(主たる事業別・同一法人)

区分		介護主体法人 n=2,886			保育主体法人 n=2,897			障害主体法人 n=1,223		
		2022	2023	差 2023 -2022	2022	2023	差 2023 -2022	2022	2023	差 2023 -2022
従事者数	人	166.5	165.7	△ 0.8	66.7	67.3	0.7	107.5	106.8	△ 0.7
人件費率	%	66.2	65.8	△ 0.4	72.5	72.2	△ 0.3	66.1	65.8	△ 0.3
経費率	%	27.1	26.6	△ 0.5	20.0	19.8	△ 0.2	21.8	21.6	△ 0.2
減価償却費率	%	5.6	5.5	△ 0.1	3.3	3.2	△ 0.1	4.1	4.1	△ 0.0
サービス活動増減 差額比率	%	0.7	1.7	1.0	4.0	4.7	0.7	1.7	2.1	0.4
経常増減差額比率	%	0.7	1.8	1.1	4.4	5.0	0.6	2.3	2.9	0.7
従事者1人当たり サービス活動収益	千円	6,304	6,483	179	5,681	5,911	230	6,413	6,610	197
従事者1人当たり 人件費	千円	4,175	4,269	93	4,121	4,267	146	4,236	4,349	113
赤字法人割合	%	46.6	40.0	△ 6.7	24.8	21.1	△ 3.7	35.4	31.7	△ 3.7

(図表4) 黒字・赤字推移別 介護主体法人の経営状況(同一法人)

区分		黒字転換 n=438			赤字転落 n=245			黒字維持 n=1,295			赤字継続 n=908		
		2022	2023	差 2023 -2022	2022	2023	差 2023 -2022	2022	2023	差 2023 -2022	2022	2023	差 2023 -2022
従事者数	人	163.8	161.5	△ 2.4	139.6	139.4	△ 0.2	193.0	192.2	△ 0.8	137.2	136.9	△ 0.3
サービス活動収益	百万円	1,018	1,065	46	865	858	△ 8	1,255	1,286	31	822	835	13
サービス活動費用	百万円	1,044	1,041	△ 3	848	879	31	1,204	1,225	21	863	868	6
サービス活動増減 差額	百万円	△ 26	23	49	17	△ 21	△ 38	51	60	10	△ 41	△ 33	7
人件費率	%	67.9	65.2	△ 2.7	65.6	68.4	2.8	64.2	64.0	△ 0.1	69.9	69.5	△ 0.4
経費率	%	28.5	26.7	△ 1.7	26.9	28.4	1.5	26.2	25.8	△ 0.4	28.4	27.9	△ 0.5
減価償却費率	%	5.9	5.6	△ 0.3	5.3	5.5	0.2	5.3	5.1	△ 0.1	6.2	6.2	△ 0.0
サービス活動増減 差額比率	%	△ 2.6	2.2	4.7	2.0	△ 2.5	△ 4.4	4.0	4.7	0.6	△ 4.9	△ 4.0	1.0
経常増減差額比率	%	△ 2.7	2.4	5.1	2.1	△ 2.5	△ 4.6	4.1	4.9	0.8	△ 4.9	△ 4.0	0.9
従事者1人当たり サービス活動収益	千円	6,216	6,593	377	6,196	6,150	△ 45	6,500	6,689	189	5,991	6,099	108
従事者1人当たり 人件費	千円	4,221	4,296	76	4,067	4,208	141	4,171	4,284	113	4,189	4,239	51

2024年度	年度当初人数	入職人数	退職総人数	うち年度当初 いた人	退職率	1ヶ月未満	3ヶ月未満	3ヶ月～ 1年未満	1年～ 3年未満	3年～ 5年未満	5年～ 10年未満	10年以上	3ヶ月以上 退職人数
越谷	119名	22名	15名	7名	12.61%	3	0	4	1	1	5	1	12名
藤代	103名	17名	21名	14名	20.39%	3	1	6	6	2	2	1	17名
おたけ	108名	29名	18名	11名	16.67%	2	1	5	4	1	4	1	15名
かななみ	57名	26名	17名	11名	29.82%	2	1	1	9	1	2	1	14名
尾久	29名	13名	10名	3名	34.48%	1	1	3	2	2	0	1	8名
あじさい		12名	0名	0名		0	0	0	0	0	0	0	0名
総計	421名	124名	81名	51名	19.24%	11	4	19	22	7	13	5	66名

越谷介護職	77名	12名	9名	4名	11.69%	2	0	3	1	1	2	0	7名
藤代介護職	66名	12名	14名	11名	21.21%	2	0	4	6	1	1	0	12名
おたけ介護職	88名	24名	15名	9名	17.05%	1	1	4	3	1	4	1	13名
かななみ介護職	44名	20名	15名	13名	34.09%	1	1	0	9	1	2	1	13名
尾久介護職	26名	13名	10名	6名	38.46%	1	1	3	2	2	0	1	8名
あじさい介護職		10名	0名	0名		0	0	0	0	0	0	0	0名
総計	301名	91名	63名	43名	20.93%	7	3	14	21	6	9	3	53名

2025年3月	入職人数	退職人数	月末人員	内訳	平均年齢	平均勤続年数	介護職	介護職内訳	介護職平均年齢	介護職平均勤続年数	介護福祉士割合	10年以上介護福祉士	技能実習生(特定)
越谷	1名	2名	124名	男35 女89	48.8歳	9年7ヶ月	76名	男18 女58	46.0歳	10年	63.16%	35名	6名(5名)
藤代	1名	2名	96名	男32 女64	49.1歳	9年4ヶ月	58名	男13 女45	44.9歳	9年8ヶ月	53.45%	23名	4名(5名)
おたけ	2名	1名	115名	男56 女59	44.4歳	5年2ヶ月	90名	男44 女46	43.4歳	5年1ヶ月	44.44%	30名	8名(1名)
かななみ	2名	2名	67名	男24 女43	47.9歳	2年7ヶ月	46名	男18 女28	45.3歳	1年11ヶ月	47.83%	20名	1名(3名)
尾久	1名	1名	32名	男10 女22	47.4歳	2年9ヶ月	26名	男5 女23	45.0歳	2年	57.69%	11名	
あじさい	0名	0名	12名	男5 女7	41.4歳		10名	男4 女6	41.9歳		40.00%	2名	
総計	7名	8名	452名	男164 女287	47.4歳	6年7ヶ月	306名	男102 女203	44.7歳	6年5ヶ月	52.13%	121名	19名(14名)

越谷	年度当初人数	入職人数	退職総人数	うち年度当初いた人	退職率	1ヶ月未満	3ヶ月未満	3ヶ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年以上	3ヶ月以上退職人数
2022	128名	14名	17名	14名	13.28%	1	1	3	4	3	4	1	15名
2023	122名	17名	19名	15名	15.57%	5	0	4	1	3	3	3	14名
2024	118名	22名	16名	8名	13.56%	3	0	4	1	1	5	1	13名
越谷介護職2024	76名	12名	9名	4名	11.84%	2	0	3	1	1	2	0	7名

2025当初
2025介護職当初

124名
79名

介護2 看護1 その他2

藤代	年度当初人数	入職人数	退職総人数	うち年度当初いた人	退職率	1ヶ月未満	3ヶ月未満	3ヶ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年以上	3ヶ月以上退職人数
2022	105名	21名	18名	15名	17.14%	1	1	5	4	0	2	5	16名
2023	108名	17名	21名	14名	19.44%	1	0	3	6	4	3	4	20名
2024	103名	17名	24名	16名	23.30%	3	1	7	7	2	3	1	20名
藤代介護職2024	66名	12名	17名	14名	25.76%	2	0	5	7	1	2	0	15名

2025当初
2025介護職当初

96名
61名

介護5 看護1 その他1
介護7

おたけ	年度当初人数	入職人数	退職総人数	うち年度当初いた人	退職率	1ヶ月未満	3ヶ月未満	3ヶ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年以上	3ヶ月以上退職人数
2022	112名	20名	26名	19名	23.21%	1	1	9	8	3	3	1	24名
2023	106名	29名	22名	19名	20.75%	1	0	3	8	4	5	1	21名
2024	104名	29名	18名	11名	16.67%	2	1	5	4	1	4	1	15名
おたけ介護職2023	86名	24名	15名	9名	17.44%	1	1	4	3	1	4	1	13名

2025当初
2025介護職当初

115名
94名

介護4 看護1

かななみ	年度当初人数	入職人数	退職総人数	うち年度当初いた人	退職率	1ヶ月未満	3ヶ月未満	3ヶ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年以上	3ヶ月以上退職人数
2022	60名	49名	38名	27名	63.33%	5	2	8	20	2	1	0	31名
2023	69名	28名	41名	25名	59.42%	8	4	9	18	0	1	1	29名
2024	56名	26名	15名	9名	26.32%	1	1	1	9	1	1	1	13名
かななみ介護職2023	41名	20名	13名	12名	29.55%	0	1	0	9	1	1	1	12名

2025当初
2025介護職当初

67名
48名

介護9

尾久	年度当初人数	入職人数	退職総人数	うち年度当初いた人	退職率	1ヶ月未満	3ヶ月未満	3ヶ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年以上	3ヶ月以上退職人数
2022	24名	9名	7名	4名	29.17%	0	1	4	2	0	0	0	6名
2023	27名	12名	7名	2名	25.93%	0	3	1	3	0	0	0	4名
2024	30名	13名	13名	5名	43.33%	2	2	3	3	2	0	1	9名
尾久介護職2023	24名	13名	13名	7名	50.00%	2	2	3	3	2	0	1	9名

2025当初
2025介護職当初

30名
24名

介護3 介護3

あじさい	年度当初人数	入職人数	退職総人数	うち年度当初いた人	退職率	1ヶ月未満	3ヶ月未満	3ヶ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年以上	3ヶ月以上退職人数
2024		12名	0名	名		0	0	0	0	0	0	0	名
		10名	0名	名		0	0	0	0	0	0	0	名

2025当初
2025介護職当初

12名
10名

社会福祉法人 エンゼル福祉会
越谷なごみの郷
2024 年度事業報告書

2025 年 5 月策定

1. 人材（財）雇用

（1）新規職員の採用（新卒・中途・外国人技能実習生）

求人媒体の定期的な更新や SNS を有効活用した人材採用及び、効果的な面談・面接を実施し、職員採用に繋げていき、また、入職してからの体制、職員同士の環境を整備し人材定着も合わせて実施する事を人材雇用の基本的な考え方としておこなってきました。

新規卒業者の採用については、県内専門学校・高等学校へ訪問を実施する予定でしたが、2024 度については、数校のみの訪問となっています。また、WEB 求人媒体を通じてインターンシップも組み入れ、採用選考までのミスマッチを防ぐ取り組みをはじめた 1 年でもありましたが 0 件となっています。

看護学校生の実習生については、感染対策を講じて受け入れを再開しました。

◇採用状況及び実習生受入資料

単位：人

	応募媒体	応募数	面接数	採用数	不採用	面接辞退	採用辞退
1	ホームページ	3	2	2	1	0	0
2	施設ポスター	0	0	0	0	0	0
3	ジョブメドレー	0	0	0	0	0	0
4	インディード	1	1	1	0	0	0
5	マイナビ福祉介護のシゴト	1	1	1	0	0	0
6	コメディカルネットコム	0	0	0	0	0	0
7	直接応募	2	2	2	0	0	0
8	介護ジョブ	1	0	0	0	1	0
9	ハローワーク	8	7	4	3	1	0
10	職員紹介	1	1	1	0	0	0
11	外国人技能実習生	3	3	3	0	0	0
12	特定技能	0	0	0	0	0	0
13	マイナビ 新卒	0	0	0	0	0	0
14	高校新卒	0	0	0	0	0	0
15	職員紹介	1	1	1	0	0	0
	合計	21	18	15	4	2	0

(2) 離職対策

2024 年度の離職率は若干前年度を下回る結果となりましたが、入社後 1 年未満の退職者が 8 名と退職者の半数を占めています。

また、当施設の離職率は 6 年前(離職率 22%)のピークを境に減少傾向にあります。自己都合や転職による退職が依然として上位を占めている結果となっています。入職した際は、介護業界や当法人に対して期待し希望を持って入職しましたが、それとは反してやりがいやモチベーションを保てずに多職種や他同業に転職してしまうケースが多くあります。今後の課題としては、3 ヶ月未満の早期退職者が 5 名出ていますので、O J T のシステムを改めて見直し、定期面談を実施し定着率を高めていきます。

◇2024 年度の退職理由と離職率

単位：人

退職理由	2023 年度	2024 年度
自己都合	7	6
転職	4	5
体調不良	3	2
労働条件（給与等）	1	0
人間関係	0	0
定年又は高齢のため	2	0
家族介護	1	0
引越・結婚	0	1
特定技能退職（再就職あり）	0	3
合計	18	17
離職率	15.5%	13.2%

(3) 各部署の職員配置計画と実績

① 特別養護老人ホーム（地域密着型特養及び短期入所含む）

人員基準は満たしているが、ご利用者：看介護職員＝1：2.2 の職員配置にするには、介護職を 70 名配置する計画にしていたが 6 名不足の未達成となっています。

しかし、新型コロナウイルス感染症が 5 類に引き下げられた後は従来型と地域密着型の職員配置については、応援体制を取りながら配置の平均化は図っていきました。

また、常勤職員が 4 名怪我や病気療養中の時期には夜勤専属の派遣職員を一時期導入し、直接雇用職員が日勤帯に配置できるようにしています。

② 通所介護（認知症対応型含む）

2023 年度下期より利用者定員数を変更し、それに伴う職員配置数も変更となっています。職員配置よりも深刻な問題は、職員の平均年齢が 58 歳となっており、毎年体調や年齢を理由に退職する職員が増加する傾向にありますので、若い世代の職員採用が課題となっています。

③ 訪問介護

通所介護と同様な課題があり、職員の平均年齢が 62 歳となっています。数年に遡っても若い世代の入職がない状況となっていますので、新卒での採用や施設全体での配置変更など、事業継続化するための対策が必要となっています。

④ 居宅介護支援事業

職員配置は、常勤職員 3 名体制で運営しています。外部からの採用はありませんが、施設内で資格を取得した場合は、ケアプラン新規状況を確認しつつ配置転換を行っていきます。

⑤ 地域包括支援センター

越谷市との委託契約人員配置は、3 職種・5 名体制となっており、基準通りに運営できています。

	2023 年度	2024 年度計画	2024 年度実績	計画比
施設長	1	1	1	0
従来型特養（SS 含）	49	52	49	▲3
地域密着型特養（SS 含）	16	18	17	▲1
従来通所	11	15	11	▲4
認知症対応通所	2	4	2	▲2
訪問介護	7	7	7	0
居宅介護支援事業	4	5	3	▲2
地域包括支援センター	5	5	5	0
医務（派遣含）	12	12	14	2
管理栄養士	2	2	2	0
理学療法士	0	1	0	▲1
総務全体	11	13	15	2
障害者雇用	2	2	2	0
	122	137	128	▲9

2. 研修・育成

5 項目を重点課題として 2024 年度も前年度と同様に職員育成に務めてきました。

- ・臨機応変な対応と柔軟な思考ができる職員の育成
- ・基本理念を理解した職員の育成
- ・専門職集団の構築のための研修体制の推進
- ・自部署だけでなく、他部署との連携を強化することで、一体感のある組織を目指す
- ・育成体制の見直しと介護勉強会の計画立案と実施

(1) 専門的な知識と技術の習得

介護福祉士、嚥下訓練指導員、認知症実践者研修の参加など施設全体で資格保有者の増員を図り、安定的な運営とご利用者様が安心して過ごすことが出来るよう施設全体の質的向上を図る計画としました。また認定特定行為業務従事者については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり進める事が出来ませんでした。

- ・食プロ養成講座受講（嚥下機能訓練員）・・・2024 年度は既存資格保有者のリカレントのみ
- ・介護福祉士取得 2 名
- ・ユニット特養リーダー研修 1 名

(2) 研修の充実

法令上求められている研修（看取りケア・虐待防止・感染症対策・身体拘束防止・事故防止・防災災害対策訓練等）を年間計画として策定しました。また、2024 年度からは事業継続計画に関する災害対策・感染症対策の訓練や研修も義務化され施設内委員会やグループ内研修委員会が主催し、多岐にわたり研修を受講する形となりました。職員の研修受講の進捗は個別研修計画書を各自が作成し、年 2 回実施する人事考課定期面談にて確認しています。

研修名	実施回数/開催時期
虐待防止委員会研修	2 回
身体拘束廃止委員会研修	2 回
事故防止対策委員会研修	2 回
褥瘡予防委員会研修	2 回
感染症対策委員会研修	2 回
食支援（嚥下機能向上）研修	2 回
看取り介護研修	2 回
現任者研修	2 回
所属部署上長指定研修	1 回

新卒者研修	4 月・10 月開催
グループ合同 3 年目研修	通年開催
グループ合同 7 年目研修	10 月開催
グループ合同管理者研修	3 月開催
災害対策総合避難訓練	2 回
災害対策水害避難訓練	1 回
事業継続計画研修・訓練	2 回

3. 事業別報告

(1) 特別養護老人ホーム

稼働率実績

	2024 年度 計画	2024 年度 実績	計画比
従来型特養	97.0%	95.5%	▲1.5%
地域密着型特養	97.0%	96.6%	▲0.4%

①入院日数の減少

適切な口腔ケアの実施・早期体調不良の発見、適切な健康管理を実施し、協力医療機関連携とは、情報共有や受診対応も早期に行ってきましたが、2024 年度入院日数が増加した主な要因としては、8 月～9 月・12 月～2 月に新型コロナウイルス感染症の罹患者が 50 名以上発生した事例があり、その後の後遺症とし食欲不振になるケースが多く見られ長期入院を余儀なくされたケースが目立ちました。肺炎による入院者も多くは新型コロナウイルスの影響が大きく作用しています。

	2024 年度 計画	2024 年度 実績	計画比
入院実績	500 日以内	1138 日 (46 名)	+638 日
肺炎入院実績	150 日 (5 名以内)	370 日 (9 名)	+220 日

② 薬に関する事故件数

ルール違反による服薬事故、ダブルチェック未実施による服薬事故を 0 件の目標を立て前年度より減少する結果になり、ご利用者を間違えての誤薬は 0 件となりました。しかし落薬や与薬忘れが薬事故の大半を占めています。落薬の原因は飲み込み最終確認の怠り、予約忘れは職員間の情報共有が確実に行われていない為に発生した事故です。

	2022 年度 実績	2023 年度 実績	2024 年度 実績
薬に関する事故件数	25 件	14 件	11 件

③ 看取り介護

協力医療機関と密に連携を図り、終末期の支援ができる体制を整えることができています。また、施設職員とご家族の間でも情報交換を行い、ご入居者・ご家族の希望に沿った支援ができるように専門職の体制強化を図ることができたと思われます。

2024 年度看取り者数：19 名

④ 不適切なケア防止に向けた取り組み

各フロア会議や虐待防止委員会中心に不適切だと思われる対応や認知症の対応に難しさを感じている場面などを抽出する時間を設けました。日々の支援の中で振り返りを行うことで、介護職員の基本的な態度や声掛けなどは特に注意して入居者へのかかわり方を見直す時間を作り、基本的な介護技術や介護するときの心構え等基本的な知識・技術が習得できる機会を委員会研修にて実施しました。また、全施設の虐待防止委員会で合同会議を開催し「虐待の芽防止チェックリスト」を全施設共通書式として完成させ活用し、傾向分析から改善項目を推察し取り組んできました。

2024 年度虐待の芽チェックリスト実施回数：2 回

(2) 短期入所生活介護

稼働率実績

	2024 年度 計画	2024 年度 実績	計画比
従来型短期入所	100.0%	112.6%	+12.6%
地域密着型短期入所	100.0%	104.8%	+4.8%

- ① 新型コロナウイルス感染症の影響により特養部署内にてクラスターが発生した事例もありましたが、ショートステイの運営休止は実施せず通常通りにご利用者の受け入れを行ってきました。その時には、厳重に感染対策（フロア制限・居室制限）を講じた事により外部のケアマネジャーにも理解され、安定したリピートご利用者や新規の依頼に繋がり、両部門の短期入所生活介護で稼働率が 100%を達成できる結果となりました。

- ② 従来型・ユニット型の両部門で共通している点として、医療的ニーズの高いご利用者や緊急

を要する場合のケースは積極的に受け入れており、施設全職員・全職種で同じ姿勢で臨んで運営する事が出来ています。また、受付や新規対応・送迎なども従来とユニットで情報を共有し部署毎のセクト的にするのではなく、両部署で協力体制をとり、365 日体制で連絡対応ができる体制としています。

(3) 通所介護

稼働率実績等

	2024 年度 計画	2024 年度 実績	計画比
従) 稼働率	65.0%	63.2%	▲1.8%
従) 1 日平均利用者数	23.0 名	22.5 名	▲0.5 名
従) 年間新規件数	30 名	24 名	▲6 名
認) 稼働率	50.0%	33.9%	▲16.1%
認) 1 日平均利用者数	6.0 名	4.1 名	▲1.9 名
認) 年間新規件数	10 名	3 名	▲7 名
車両事故件数	0 件	1 件	物損事故 1 件あり

※従)・・・従来型通所介護 定員：35 名

※認)・・・認知症対応型通所介護 定員：12 名

①新型コロナウイルス感染症の影響は、11 月～1 月に 340 回の当日利用中止がありましたが、昨年の様な年間を通じて当日利用が相次ぐ形とはなりませんでした。(年間当日中止件数：618 件)
運営の考え方としては、現在持っている心身機能が維持・向上することを目的とした活動提供をおこなっていき、利用者自らが取り組める活動、役割の創出など職員が活動案を出し合って進めてまいりました。また当施設の特徴であった「外出活動」を再開し、普段中々行けない場所へお連れし心身機能の向上を図り、また屋外を歩行する、地域社会とのつながりを目的に現在まで行っております。

②認知症対応型通所介護では、中重度の認知症状をお持ちの利用者を、今できる事を続けていただくという点を重視しています。特にここ最近マンツーマンでの支援が必要な方が多く、ご家族の負担を減らすという目的を重点課題におき、支援にあたっています。
今年度は従来型通所介護と同様、施設入所やショートステイの併用の方々も多く、計画を大きく下回る結果となりました。
現在のご利用者は特定の居宅事業所からのご紹介となっているため、幅広く周知し認知症に特化した事業所であるという点をアピールすることが今年度以降の課題となります。

(4) 訪問介護

サービス提供時間実績（月間平均時間）

	2024 年度 計画	2024 年度 実績	計画比
介護保険サービス	380.0 時間	251.4 時間	▲128.6 時間
訪問型サービス	45.0 時間	46.3 時間	+1.3 時間
総合支援事業	195.0 時間	203.9 時間	+8.9 時間
合計	620.0 時間	501.6 時間	▲118.4 時間

登録利用者数（月間平均人数）

	2024 年度 計画	2024 年度 実績	計画比
介護保険サービス	34 名	23.3 名	▲10.7 名
予防介護サービス	12 名	10.6 名	▲1.4 名
総合支援事業	14 名	12.4 名	▲1.6 名
合計	60 名	46.3 名	▲13.7 名

① 2024 年度は、サービス提供時間や登録者数は当初計画より未達成となっています。

正規職員（管理者及びサービス提供責任者）の 1 日当たりのケア時間は月間平均 3.2 時間となっており、目標値 5.0 時間より大きく下回っています。ケア時間が空いた場合は、特養部門の食事介助や入浴介助に就くようにしています。

②訪問介護事業所の職員は、正規職員 3 名・非常勤職員 4 名の体制となっていますが、越谷なごみの郷でも職員の平均年齢が 60 歳以上であり、数年後の事業継続を考えていく上で職員採用が急務でありながら、この数年間職員の新規採用ができておりません。

現在の傾向として施設系（入居系・入所系）を希望する求職者が圧倒的に占めており、今後の新規職員採用が課題としてあがっております。

(5) 居宅介護支援

介護給付件数（給付は一人あたり月間件数・認定調査は部署内の年間総数）

	2024 年度 計画	2024 年度 実績	計画比
介護給付件数（月間）	35 件	38.4 件	+3.4 件
予防給付件数（月間）	6.0 件	5.3 件	▲0.7 件
認定調査件数（年間）	36 件	27 件	▲9 件

① 介護給付及び予防給付件数においては、3名の職員が偏ることなく安定した件数を担当し運営する事が出来ております。連携している地域包括支援事業所からも多くの新規依頼がありお断りするケースも目立っています。新規職員の採用に至っていませんので、2025年度は1名以上採用出来ればと考えています。

②特定事業所加算の取得については、算定には至っていませんが、管理者主導のもと、毎月のケアプランチェック・訪問・記録・モニタリング等適正な業務が遂行しているかサービス会議を通じて確認しております。また研修は年間計画を立案し、事業所全体のケアマネジメントの質の向上を図ってきました。

(6) 地域包括支援センター

介護保険法の中で「地域包括支援センターは、第一号介護予防支援事業（居宅要支援被保険者に係るものを除く）及び包括的支援事業、その他厚生労働省令で定める事業を実施し、地域住民の心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行うことにより、その保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的とする施設とする。（介護保険法第115条の46）」と定義されています。そのことから、高齢者が住み慣れた地域でいきいきと暮らすことができ、要介護状態にならないよう、地域高齢者の心身の健康維持、保健活用、医療の向上等、生活基盤が安定するよう相談援助を行います。さらに要支援者にはケアプラン作成をはじめ、地域の介護保険事業者につなげ総合的な援助を目的に役割を担っていきます。また、新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことにより、近隣住民やひのき荘と連携し、オレンジカフェ「カフェきらく」が2024年オープンしました。近隣住民の方も待ち望んでいた取り組みができた年度でもありました。引き続き包括職員がサポートを行い、毎月開催しサポートすることになっております。

①総合相談支援

②介護予防ケアマネジメント

③権利擁護

④包括的・継続的ケアマネジメント等

⑤指定介護予防支援業務の実施

⑥オレンジカフェの継続

上記、越谷市要綱に則って支援業務を遂行してきました。

4. ガバナンスの強化（意思決定と合意形成）

2023 年度～2025 年度 3 か年共通事業計画

ガバナンスとは「管理・統治」を表しており、施設が健全な運営をするために、自分たちで自社を管理・統制するということを意味しています。そして、コンプライアンス（法令遵守・社会模範等）と深く関係性があり、コンプライアンスを強化すれば、ガバナンスの強化にもつながるといった形になります。目指す方向性としては「法令や社内規範を守る（コンプライアンス強化）ために管理体制を強化する（ガバナンス強化）」となります。

【ガバナンスを強化する事によって得られるメリット】

- ①法令や規則等をしっかりと守る施設として、社会的に認識され信用信頼が得られ、施設自体の価値が向上します。
- ②自らを管理する管理体制が整うため、不正の防止につながります。
- ③ガバナンスを強化することにより、社会的な信用が向上するため、ご利用者の継続的なサービス利用、選ばれる事業所になり新規獲得が見込め、施設運営の安定・成長に繋げることが出来ます。

【ガバナンスを強化するための取り組み】

- ①内部統制機能を構築・強化する法令やルールに従った経営や業務ができているのかをしっかりと管理するために、月毎に開催される運営会議・法人会議をはじめとする、サービス適正委員会・内部監査体制の確立・自主点検の実施等、様々な視点から健全な運営管理体制が整っているかを確認します。
 - ・運営会議は毎月開催⇒各サービス会議やフロア会議等で決定事項を周知
 - ・法人会議は毎月実施⇒責任者会議を開催し、決定事項を周知
 - ・内部監査は全サービス実施⇒指摘事項や改善事項は期限を設けて取り組みを行う
 - ・自主点検は、年度当初に全サービス実施
- ②ガバナンスの取り組みを社内外へ周知し、透明性の高い情報の開示を行い、社会福祉法人として信頼性を高めていきます。ガバナンスの取り組みを周知することにより、法令やルールを遵守するという意識が職員の中にも生まれるようになります。
 - ・事業報告書及び事業計画書はホームページにて掲載
 - ・法令遵守等の取り組みは掲載されていません。⇒越谷市自主点検票をホームページに掲載するか検討が必要である。
- ③客観的な評価や施設内だけでは気づけなかった問題の発見にも繋げるため、第三者視点からの監査体制も重要となりますので、介護サービス事業者第三者評価も効果的に活用していきます。
 - ・第三者評価は 2025 年度に受審予定

5. 事業継続計画による研修・訓練の実施

大規模災害に加え感染症に関する事業継続（BCP）の策定が義務化されました。

BCP 計画の主な方向性は「日頃からの備えと業務継続に向けた取り組みの推進」が掲げられており、策定項目は下記の通りとなっています。

【BCP 計画の主な項目】

① 感染症対策の強化

施設系サービスについて、現行の委員会の開催、指針の整備、研修の実施等に加え、訓練・シミュレーションの実施。

その他のサービスについて、委員会の開催、指針の整備、研修の実施、訓練・シミュレーションの実施等。

② 業務継続に向けた取組の強化

全ての介護サービス事業者を対象に、業務継続に向けた計画等の策定、研修の実施、訓練（シミュレーション）の実施等を義務付ける。

③ 災害への地域と連携した対応の強化

介護サービス事業者（通所系、短期入所系、特定、施設系）を対象に、小多機等の例を参考に、訓練の実施に当たって、地域住民の参加が得られるよう連携に努めなければならないこととする。

- ・事業継続計画訓練 2 回実施：セコム安否確認災害訓練・感染症対策研修訓練

6. 施設共通の取り組み

① 地域貢献事業の推進

地域貢献事業として、nego カフェ（認知症カフェ）を再開したいと考えておりましたが、施設内 2 度の感染症発生により未達成となっています。

② 越谷なごみの郷 和太鼓祭り

町会・地域の規模や内容の情報を伺いながらの開催となりますが、2024 年度はご利用者向け・ご家族向けの屋台を出店して開催しました。

- ・2024 年 10 月 6 日（日）12 時から 14 時実施

③ 防災体制の確立

災害備品や非常食については随時必要物品の確認や入れ替えを実施しました。大規模災害等を想定した訓練、地域連携を想定した訓練も参加し、災害における準備体制

また、福祉避難所にも指定されていますので、開設訓練も実施していきます。

【施設主催災害対策訓練や準備】

- ・避難訓練 4 回実施（総合避難訓練 2 回・水害対策訓練 1 回・夜間想定訓練 1 回）

- ・災害時に関する備品の購入（発電機・コンロ等）
- ・非常食の入れ替え及び購入（利用者分・職員分）

【関係機関主催災害対策訓練】

- ・越谷市主催 福祉避難所開設訓練は雨天のため中止
- ・川柳地区防災訓練：2024 年 3 月 2 日に明正小学校にて市役所・自治会・消防署・水道局
越谷なごみの郷参加

④ 大規模修繕の準備

開設より 25 年が経過し、修繕や設備の入れ替えが必要となってきました。

2025 年度実施に向けて各業者と打合せを開始しました。

- ・本館全体の温水配管工事
- ・全館通信機器の入れ替え（5 年リース予定）
- ・本館及び別館の LED 化（6 年リース予定）
- ・事務所改修及び修繕工事

以上

社会福祉法人 エンゼル福祉会
藤代なごみの郷
2024 年度事業報告書

(1) 育成

I 職員の知識・スキル向上

①認定特定行為業務従事者の技術担保

毎月の委員会の開催により、ヒヤリハットの共有、シミュレーターを使用して練習を実施。委員会の中では吸引の必要な方の情報交換をすることで安全に夜間実施することが出来、練習に関してもできていないところを互いに指摘し合うことが出来、インシデントは 0 にすることが出来た。

②内部・外部の研修への参加

委員会主催の法定研修への参加は各部署業務の合間を見て動画による視聴・訓練の実施ができた。外部研修への参加は施設長より委員会委員長や各部署・専門職へ投げかけたが、実際参加できたのは生活相談員の相談援助技術についてののみである。

③グループ合同研修への参加

7 年目研修 4 名参加

3 年目研修 6 名参加

入社時研修 11 名参加

II リーダー・責任者・管理者等のマネジメント力向上

① ユニットリーダーの育成

2025 年 3 月末までにユニットリーダー 4 名の実地研修まで終了した。研修後、知識の習得や課題等がそれぞれ見え、実施内容の計画まで立案しているが、実施までの計画が立てられていないため、課題は見たものの実行に移すまでには至らなかった。2025 年度には実施し結果を出せるよう、計画をマネジメントシートに落とし込み半年に一度しっかり評価・修正でき、年度末には達成できるようにしていく。

その他、委員会活動に関しては 4 名全員がすべての委員会の所属し活動している姿が見られた。うち 2 名は委員長を経験。委員会主催研修の作成にも携わることが出来た。

新たなユニットリーダーの育成はできていない。

② 管理者・責任者の育成

法人管理者・責任者研修、グループ管理者研修へ参加。

月 1 回の管理者・責任者会議を行い、各部署の課題の共有、施設運営に関しての方針のすり合わせ等実施した。話し合いの中で、方向性がずれていることなく課題に向かって取り組む姿勢がそれぞれ見えている。

施設内の課題に対して真摯に向き合っている姿はあるが、自分のスキルアップのための行動（外部研修への参加、資格取得等）は見られなかった。

(2) 雇用 (採用)

I 新規卒業予定者の採用

- ① 2024 年度新規卒業生 2 名の採用。(高卒 1 名、専門卒以上 1 名)を目標にあげたが、1 名のみの採用となった。その 1 名に関しては実習に来た学生の為、実習先を就職先に選ぶ学生は多いとため実習生の受け入れはやはり重要である。今後も実習生を受け入れていく。また、実習中の指導者や施設長、職員のかかわりは重要となってくるため、受け入れ態勢を整えていく。

II 職員の採用 (中途採用)

①特別養護老人ホーム (短期入所含)

退職者 13 名、入職者 11 名と退職者に対しての入職者の補充が出来ていない。

紹介に頼らざるを得ない状況は変わらず、紹介が多くなっている。紹介会社を使って入職した職員の離職率は看護師 100%、介護は特定技能も入れると 22% (9 人中 2 名退職)、と高く看護師に関しては派遣の定着率も低い傾向にある。そのため、新たな職員を受け入れる体制、指導方法に関しては一つ一つ丁寧に対応し離職防止に注力する必要がある。

②通所介護

常勤 1 名の退職があったため、1 名採用。訪問介護と兼務している管理者がフルで現場に入っている状況があり、マネジメントに課題があるためもう 1 名採用できるようにしていく。

③訪問介護

体調不良や親の介護のためにお休みをする職員がいたが、その間の補充はなしで運営。訪問介護の求職者がいないのが現状。今後は特養を増員し、内部での移動も検討していく。

④居宅介護支援

退職者がいなかったため、採用なし。

【2024 年度面接者採用者数一覧】 ※採用者数 (面接者数)

求人媒体	介護職	看護職	総務	PT	介護助手	保健師	特定技能	計
ハローワーク					1 (1)			1
ネット媒体								
ホームページ	2(2)							2
職員紹介								
人材紹介会社	6(13)	3(5)		0(1)		1(1)	3(4)	13
直接電話	1(1)							1
合計	9	3		0	1	1	3	17

【2024 年度退職理由別一覧】

離職理由別一覧	従来	ユニット	通所	訪問	医務	居宅	総務	包括	計
転職				1					1
体調不良	2	1						1	4
結婚、妊娠、転居									
人間関係					1				1
高齢の為							1		1
その他	6	4	1		3				14
合計	8	5	1	1	4		1	1	21

離職率

	2022 年度	2023 年度	2024 年度
介護職離職率	17.9%	19.4%	21.2%
全体離職率	17.1%	17.9%	20.3%

(3) 事業別計画

I 特別養護老人ホーム

- 90 床稼働率 ・ ・ ・ 98%以上 → 96.6%
- 防げる事故・入院の減少 ・ ・ ・ 入院総日数 700 日以内 → 472 日
- 加算の取得

① 安全に医療ニーズの高い方を受け入れ、事故 0

認定特定行為業務従事者（喀痰吸引、胃ろう栄養）の資格を取得している職員に対し、委員会の開催、吸引等の手技の確認をシミュレーターを使用し、指導看護師による技術確認を毎月実施。在宅酸素の受入れは今年度なし。その他インスリンの方、2024 年度はバルーンカテーテルの方が一時 8 名ととても多く入居されていた。看護師による臨時の研修会を開催するなどして事故予防に努め、事故なく受け入れることが出来た。

② 薬の事故 0

施設全体での薬のインシデントは 7 件発生（SS1 件、従来型 2 件、ユニット 4 件）。

内訳は落薬 2 件、誤薬 4 件、与薬忘れ 1 件。

落薬以外はマニュアル通りに実施していないことで発生しているため、マニュアルを徹底するようにその都度、または定期的に伝えるようにしているが防ぐことが出来なかった。

③ 転倒からの骨折事故 0

転倒を繰り返される方で何度も対策を講じてきたが防ぐことが出来ず、1 件発生してしまった。記録を細かく書くことで下肢筋力の低下や認知機能の低下などを早い段階でキャッチし、情報を共有。福祉用具を導入したり機能訓練を強化することで防いできた。

④ 防げる入院日数の減少

	入院総件数	入院総日数	肺炎での入院件数	肺炎での入院総日数
2023 年度	54 件	801 日	17 件	285 日
2024 年度	35 件	472 日	4 件	137 日

2024 年度は入院日数を大幅に減少することが出来た。

肺炎予防の取り組みについては継続目標として実施。

口腔ケアの徹底、無理しない食事介助、本人に合った食形態の提供を実施。

⑤ ユニットケアの取り組み

2023 年度 2 名ユニットリーダー研修が終了しており、2024 年度残り 2 名の研修が終了した。研修で立てた計画書に記載された項目はできていないが、毎月のユニットリーダー会議において課題の共有ができています。しかし、その場の課題や目先の業務にばかり目が行き、中長期的に実施しなければならない事、自分で立てた目標を達成させなければと言う事に対し、行動に移すことが出来なかった。

来年度には計画倒れとならないよう、マネジメントシートを用いて計画的に行えるようにする。

⑥ 感染症 2 次感染者 0

研修の実施、ガウンテクニック、嘔吐処理の実施研修を実施したが 12 月から 1 月にかけて、従来型・ユニットにおいて新型コロナウイルス、インフルエンザが蔓延してしまった。

換気が不十分のところがあったことと、感染者の隔離はできたものの 5 類になったこともあり、感染していない人の自室対応をしなかったことが蔓延した要因と考える。

コロナウイルスが蔓延している中、インフルエンザがユニットで発生しすぐに全員自室でなるべく過ごしていただくようにした結果、その後の感染者がでなかった。

⑦ 加算の取得

新たな加算取得はできていない。

Ⅱ 短期入所生活介護

数値目標 稼働率：110%以上 → 109.3% 目標達成

① 選ばれるショートステイとなる

居室内は常にきれいな環境を整えお迎えすることが出来るように環境を整えるように注力

した。TVの部屋を希望する方も増えてきたため、TV部屋の確保も行ってきた。また、余暇活動においては十分とは言えないが、ギター演奏に合わせた歌会や季節行事を実施。

② 看取り介護・医療ニーズの高い方の受入れ

新たに医療ニーズの高い方の相談はなく、従来通り受け入れが来ている医療依存度の高い方の受け入れは出来た。その中でも低血糖や事故なく受け入れることが出来た。

看取り期	インスリン	バルーン	ストマ	胃ろう	透析	褥瘡
1 名	4 名	3 名	1 名	1 名	2 名	2 名

③ 感染症 2 次感染者数 0

お迎え時の乗車前検温、本人・同居家族の体調確認、マスク着用の促し、施設で決めた感染予防対策を継続的に実施。特養で新型コロナウイルスが発生し、ショートステイのご利用者様も感染してしまった。ショートステイからの持ち込みはなかった。

Ⅲ通所介護

数値目標 1 日平均 27 名、年間総利用者数 8,300 名以上

→2024 年度 1 日平均 24.2 名 年間総利用者数 7490 名

年間感染症 2 次感染者 0 →2024 年度 0 件

年間車両事故 0 →2024 年度 0 件

① 1 日平均 27 名以上、年間総実利用者数 8,300 名以上

2024 年度も目標としていた数値に届かなかった。新規利用者数は年間で 37 名となり中止者数 32 名を上回り登録者数も前年度同月から 84 名→99 名と増加した。しかしながら長く利用されていた方の施設入所や利用日数が多い方の入院からの施設入所が多く、実利用者数が伸びなかった。イベントに関しては年間通して計画通りに実行でき、ご利用者に季節感や楽しさを提供できた。また畑での野外活動を通じてやりがいや主体性を引き出せる関わりも行った。利用者からは次に何を植える？などの言葉を頂くことができ、一定の効果は得られた。

② 取得できる加算の取得

2024 年度加算取得数 0 件。年度当初相談員 1 名に認知症実践者研修を受講させる計画だったが、正規職員 1 名が退職となってしまう、予定していた受講が難しい状況となってしまった。個別機能訓練加算においては看護師で対応予定であったが、看護師も人員的に不安定な状況で、落ち着くまで保留となった。

③ 感染症 2 次感染者数 0 名

2024 年度も継続的な感染対策が実施でき、チームで高い意識の中 1 年間活動できた。また、ご家族の理解も深まり協力的な方も増えてきたことも蔓延を防げた一つの要因と考えられる。

④ 年間車両事故数 0 件

2024 年度は車両事故 0 件を達成する事ができた。2 カ月に 1 度のドライバーズ会議や社内の安全運転講習の受講など安全運転への意識を 1 年間高く保つことができた。

IV 訪問介護

数値目標 月平均登録者数 65 名 → 2024 年度月平均登録者数 59.3 名

感染症 2 次感染者数 0 → 2024 年度 0 件

車両事故 0 → 2024 年度 1 件

① 月平均登録者数 65 名

産休だったサービス提供責任者の斎藤が 4 月中旬から復帰し、サービス提供責任者 2 名体制で業務を行うこととなった。しかしながら新規を獲得するにあたり受け持つヘルパーが不足していて新規の依頼は月平均で 4 件ほどあったが思うように受け入れができず、登録者数も前年の平均と変わらなかった。

② サービス提供責任者の育成

サービス提供責任者が現場に出る時間が多く、外部研修へ参加できる時間を捻出できなかった。事業所内の研修はサービス提供責任者が中心となり振り返りを中心に実施ができた。

③ 年間感染症 2 次感染者数 0 名

感染症蔓延予防策が高い意識のもと継続的に実施ができていた。感染症に罹患した職員は数名出たが他の職員やご利用者に移すことなく業務を行えた。また、ご利用者もマスクの着用や体調不良時の事業所への連絡の協力もいただいていた。

④ 年間車両事故数 0 件 → 1 件

9 月に車両事故（前方不注意による追突事故）が発生してしまった。風化させないよう月例会議で振り返り、定期的に注意喚起を実施した。次年度は社内の安全運転講習も活用し、より一層安全運転の意識を高められるよう取り組んでいく。

V 居宅介護支援

数値目標 介護 95、予防 25 以上（常勤換算 2.5） → 介護 96.3、予防 28.2 目標達成

① 給付管理数介護 95、予防 25 以上の確保

2024 年の介護の平均が 96.3、支援が 28.2 となっており目標は達成できたが、年度末の給付管理数介護 100、予防 30 に関しては、それぞれ 95 と 28 と未達成となった。上記の給付管理数を達成するには業務の効率化などが更に必要。

② サービス事業所、地域との連携

シルバーリハビリ体操の運営委託に関しては、施設全体の協力もあり、無事に行うことが出来た。また、シルバーリハビリ体操の委託を通じて、1 級指導士等のボランティアとも交流が出

来た。今後はデイサービスなどでのリハビリ体操の実施など交流ができれば良いと思われるがそこまでには至っていない。

藤代みまもりたいの会合にも参加しており、民生委員や地域の方との交流も続いている。

③ 施設内の協力体制

前期に関してはショートステイの送迎など個別での協力が出来たりしていたが、後期に関しては、藤代または他の施設の祭りへの参加、餅つきなどの行事の参加になっている。

VI 地域包括支援センター

① 定期的なサロンへの訪問の実施は継続して行うことができています。

サロンについてはサロンの運営の中心となる方が高齢になってきていることもあり、中止となってしまうサロンも出てきている。

民生委員との情報交換については行うことができ、包括について周知をすることができたが、自治会への周知を行うことはできなかった。

② 双葉地区ではサロンつなぐの開設もあり、代表者と密に連絡をとりながら地域活動を行うことができた。またオレンジカフェをサロンつなぐで定期的開催をする事ができており今後も継続していく。

双葉地区自治会での講演や総会への参加も行うこともできており、双葉地区とは連携をとる事ができており、今後も継続していく。

③ 自治会やサロンでの介護予防講座については年 1 回の定期開催はできている。ただ決まった講座開催はできているが、こちらから声をかけて実施とまでは至っていない。

保健師 2 名体制となったのでこちらからの提案し、講座の開催を実施できるようにしていく事が今後の課題である。

VII 福祉有償運送

運営継続検討会、運営協議会へ参加し、課題の共有はできたが市役所としての動きはなく伝えるのみとなっている。また、ボランティアを集め情報交換会を実施した。個々の思いが強くルールを順守した運行ができていないボランティアもいるためすり合わせを行った。

運行自体は事故なく運行することができている。

ボランティア 1 名引退され、現在 8 名のボランティアで運行している。

VIII その他

① 夏祭りの定着

感染症の影響で夏祭りの開催を控え、再開してから 2 回目の開催となる。外で開催していた時と縮小はしたものの、内容に大きな変更はなく、昨年度より進化した開催となるように準備段階からご入居者・ご利用者とともに垂れ幕や装飾品を作成した。

開催時期は雨の確立が高いことと、熱中症のリスクもあることから室内開催を定着させる。
法人の協力を得ながら引き続き開催していく。

② 2024 年度避難訓練実施

2024 年 5 月 10 日	集中豪雨による小貝川決壊を想定した避難訓練
2024 年 7 月 14 日	総合防災訓練（通報、避難誘導、消火）
2024 年 9 月 13 日	地震を想定した連絡網訓練
2024 年 12 月 13 日	総合防災訓練（通報、避難誘導、消火）
2025 年 2 月 14 日	防犯訓練

③ 地域との連携の中では中学生の職場体験や大学生の介護等体験の受け入れを実施することで、
将来を担う子供たちの育成も協力できるようにした。

教育課程の中でも地域との連携を強化した教育になってきているため、今後も中学校と連携
した避難訓練やその他活動の実施、大学生を受け入れることで福祉に少しでも興味を持って
いただけるような活動ができるようにする。

社会福祉法人 エンゼル福祉会
おたけの郷
2024 年度 事業報告書

(1) . 育成

I 内部研修

WEB 研修、集合型の研修を取り入れながら法令に基づいた研修をしっかりと受講していく事ができた。また、外部への研修参加も積極的に行い、ユニットリーダーには東京都が実施するスキルアップ研修を受講してもらう事により、基本的な介護に関する知識、得た知識を広めていくためのマネジメント手法を学ぶことができた。

中途入職者に対する研修に関しては、グループ全体で実施する合同入社時研修（計 4 日間）への参加を原則とし、その後施設内において施設の理念や建物の造りなどを踏まえた新入職員研修を実施してきた。

① 各委員会主催研修

原則的には感染予防策を実施しながら集合型の研修を実施。

研修名	開催月
食中毒・感染症予防委員会	【2024 年 4 月】 ・ガウンの着用に関して ・ゾーニングに関して ・食中毒予防に関して 【2025 年 2 月】 ・感染症予防に関して ・感染予防のための手洗い 【2025 年 3 月】 ・嘔吐時の対応、
虐待防止・身体拘束廃止委員会	高齢者虐待に関する事 【2024 年 5 月】 ・高齢者虐待 増加の背景 ・虐待の種類と要因 ・令和 6 年度より義務付けられた虐待防止に関する内容 【2024 年 12 月】 ・大起グループ虐待防止／身体拘束廃止指針 ・虐待の種類と要因 ・虐待と疑われた／認定を受けた事例 ・身体拘束廃止に関する事 【2024 年 5 月】

	・国が定める身体拘束の要件 ・身体拘束を実施するうえでの要件 【2024 年 12 月】 ・入居者の安全と尊厳 ・スピーチロックが与える影響
事故防止委員会	【2024 年 7 月】 ・高齢者の事故 ・事故予防対策について 【2025 年 2 月】 ・薬の事故について ・介護事故の種類 ・事故の原因や再発防止策のポイント
褥瘡対策委員会	【2024 年 8 月】 ・皮膚の構造に関して ・褥瘡予防に関して 【2025 年 3 月】 ・褥瘡対策に関する指針 ・日常的な褥瘡予防 ・多職種連携による褥瘡予防
食支援委員会研修	【2024 年 9 月】 ・誤嚥性肺炎予防 ・むせ込みの種類と初期対応 ・5 期モデルについて 【2025 年 2 月】 ・窒息、誤嚥性肺炎の予防に関して ・安全な食事介助について ・食の構造化
看取り研修	【2024 年 9 月】 ・看取りの定義 ・看取り介護とは ・看取り介護で配慮すべき事 【2025 年 3 月】 ・看取り介護の流れ ・看取り期の見当 ・看取り期の変化

② 中途職員研修

2024 年度に入職した職員はグループ合同による研修（グループの成り立ちから大切にしている考え方の共有を図るために）を実施。2024 年度は計 12 名の職員が受講した。入社後は法人内の OJT システムに則り現場における指導を実施。定期的に面談を実施しながら試用期間評価を迎えるようにし、新入職員が安心して働く事ができるよう OJT を行ってきた。

Ⅱ 外部研修

① グループ内選択研修

法人内で定めた書式（個別研修計画書）に則り、年間の受講計画を策定していった。

② グループ内 3 年目研修

2024 年度は受講者なし。

③ 合同管理者研修

グループ内全ての管理者が集い、管理者としての心構え等を学ぶ事ができる貴重な機会におたけの郷からは 5 名が参加する事ができた。

④ 認知症介護基礎研修

無資格者に対し認知症介護基礎研修の受講を義務化。技能実習生に関しては 6 か月を経過後、計画立てながら受講を進めていった。

⑤ ユニットリーダー研修

2024 年度は受講者なし。

Ⅲ その他

① 資格取得制度、就業促進事業の活用

- ・荒川区の「介護サービス事業所 人材育成事業」を活用し初任者研修 2 名、実務者研修 1 名が研修修了となった。
- ・東京都の「介護職員就業促進事業」を活用し、2 名が初任者研修を修了した。

② 人事考課制度

年 2 回の人事考課を実施。基本的には例年通り 3 名（当該者・評価者・決点者）で実施。本人のモチベーションアップは当然だが、年 2 回の賞与にも影響を及ぼす重要な制度のため、決点者と評価者において配点の根拠を共有し、当該者が正当な評価結果となるよう努めてきた。人事考課の場だからこそ言える悩み、その他意見等を収集しながら、評価者自身の「良い部分」「仕事としての成果」「成長の度合い」「今後取り

組むべき事」を3者で話し合い共通認識とする事により、専門職としてだけでなく、組織人としての視野も広がっていている。

③ OJT教育システム

主にフロア責任者、ユニットリーダーを中心に行い、日々の業務の合間に本人成長度合いを確認するとともに、1か月目、2か月目、試用期間評価を確実に実施する事により、一人での勤務となった際も不安なく勤務ができる体制を整えてきた。また、試用期間評価の際には「夜間の救急搬送時の流れ」と「感染症発生時の対応」を加え、急変時にもマニュアルに沿って対応ができるような職員の育成に努めてきた。

④ その他 外部研修への参加

外部研修への参加も積極的に行った1年であった。

- ・認知症介護実践者研修…1名
- ・病院ではない看取り 些細な変化を見落とさない…2名
- ・特定給食施設 栄養士講習会…1名
- ・認知症ケアプログラム研修…1名
- ・次世代機器導入前セミナー…2名
- ・介護職員 スキルアップ研修 実践編…9名
- ・特定行為研修制度の概要…1名
- ・感染症講演会…1名
- ・医療機関における外国人患者対応支援研修…1名
- ・高齢者権利擁護推進事業 看護実践者研修…1名
- ・介護現場における多職種連携の重要性…2名
- ・認知症ケアの基本…1名

(2) 雇用（採用）

I 採用状況報告

① 応募・雇用状況

2024年度は人材紹介を含めると20社を活用。うち無償型（ハローワークやホームページ等）を5媒体。その他は採用課金型としコスト削減に努めてきた。

② 応募数・面接者数・採用者数

	2024 年度	2023 年度
応募数	136 名	97 名
面接者数	51 名	41 名
採用者数	29 名	28 名

採用率	21.3%	288%
-----	-------	------

③ 外国人技能実習生

2024 年度は 3 名の技能実習生が入国～実勤務となった。グループとして N3 の試験合格は必須となるため、日本語の勉強は定期的に行ってきた。また、日本での生活で不安を感じる事がないよう、勤務開始後しばらくは定期的に自宅への訪問を行い日常生活における心配事などの聞き取りを実施。体調を崩した際は医療機関への付き添いなども行いながら、仕事だけではなく日常生活全般において支援を行ってきた。

Ⅱ 事業所・職種別職員 常勤換算（職員）数（2025 年 3 月 31 日現在）

	正規職員	非正規職員	うち技能実習生	うち特定技能	派遣職員
①ユニット型特養	35.0 名	11.0 名	3.0 名	1.0 名	
②ユニット型短期	5.0 名	5.2 名	名	名	
③従来型特養	12.0 名	3.4 名	1.0 名	名	
④看護師	3.0 名	1.1 名			5.2 名
⑤介護支援専門員 （相談員兼）	2.0 名				
⑥管理栄養士	1.0 名				
⑦総務	2.0 名				
⑧居宅介護支援	3.0 名				
⑨機能訓練指導員	1.0 名				
⑩環境整備・運転		6 名			
⑪障がい者雇用		3 名			

Ⅲ新規卒業者

採用パンフレット及び求人票については、グループとして関東圏・東北圏の高等学校や専門学校に送付を行った。近隣高校には直接伺い、少しずつ関係も築けてきていると実感している。2024 年度中には 1 名の新規卒業者の採用が決定となり、2025 年 4 月より勤務を開始している。

Ⅳ離職状況

2023 年度の退職理由は下記の通りである。

退職理由	特養	短期入所	他職種	計
身体的負担	0 名	0 名	0 名	0 名
業務内容への不	1 名	0 名	1 名	2 名

2024 年度 社会福祉法人エンゼル福祉会
おたけの郷事業報告書

満・負担				
体調不良	2 名	1 名	0 名	3 名
人間関係	3 名	0 名	1 名	4 名
高齢のため	0 名	0 名	0 名	0 名
親族介護のため	2 名	0 名	0 名	2 名
通勤関係	2 名	0 名	0 名	2 名
結婚・出産	0 名	0 名	0 名	0 名
その他	4 名	0 名	1 名	5 名
計	14 名	1 名	3 名	18 名

	2024 年度	2023 年度
離職率	16.6%	22.7%

前年度と比較し減少。OJT システムの強化、研修受講の推奨などが減少に繋がったと感じている。今後も定着→育成の流れをしっかりと確立し、安定した運営を目指していきたい。

(3) 事業別目標評価

I 特別養護老人ホーム（従来型 40 床・ユニット型 100 床＝計 140 床）

① 稼働率

・2024 年度稼働率目標…97%

※前年比

稼働実績	94.7%	-1.2%
入院総日数	1,906 日	+654 日
空室平均	18.2 日	-2.0 日

② 入院者報告

単位：日

	肺疾患 誤嚥性 肺炎	骨折	泌尿器 疾患	脳疾患	心疾患	内臓疾患	その他 コロナ 含む
2023 年	403	47	50	22	67	277	379
2024 年	587	88	145	154	32	147	568
前年比	+184	+41	+95	+132	-35	-130	+189

③ 退居理由

理由	ユニット型	多床室	計
看取り介護	11 名	8 名	19 名

2024 年度 社会福祉法人エンゼル福祉会
おたけの郷事業報告書

病院（死亡）	14 名	7 名	21 名
他医療機関	7 名	2 名	9 名
在宅復帰	1 名	名	1 名
計	33 名	17 名	50 名

空床平均日数が-2.0 日となり減少したものの未だに高い数値を示している。稼働率としては前年度比-1.2%となった。入院日数は前年度比+654 日となっており、新型コロナウイルスによる入院日数の増加、また下半期に流行した感染性胃腸炎の影響も受けた形となっている。

④ 入居判定委員会

荒川区高齢者福祉課より 3 か月に 1 回発行される入居申し込み表に基づき、1 か月に 1 度入居判定委員会を開催している。判定委員会には、施設長、施設介護支援専門員、相談員、管理栄養士、理学療法士、看護師らが参加し情報を共有している。

⑤ おたけの郷への申し込み 2025 年 4 月 1 日時点 ※（ ）は 2024 年度数値

- ・ユニット型…名（109 名）
- ・多床室…名（185 名）

※荒川区は行政への申し込みとなるため、上記全てがおたけの郷への申し込みというわけではない。

⑥ 入居者の状態（2025 年 3 月 31 日現在）

平均年齢	平均介護度	最高齢者	最年少者
88.7 歳	3.6	101 歳	60 歳

⑦ 事故件数に関して（特別養護老人ホーム 短期入所生活介護）

転倒	転落	ずり 落ち	誤嚥	異食	所在 不明	与薬 忘れ	落薬	誤薬	外傷	火傷	溺水	物損	紛失	忘れ 物	他	合計
99	31	10		1		14	10	10	24			2	1		7	209

2024 年度は総事故件数が 209 件となり、転倒事故が約半数近くとなった。同じ方が複数回繰り返し転倒されている事も数件あった事から、原因分析・再発防止策の立案が課題となった 1 年でもあった。

また、薬の事故に関しても 34 件と多く、マニュアル（ルール）に則り行動できていない事から起きてしまった事故ばかりとなっており、改めてルールの順守の重要性を説いていく必要があると感じた 1 年でもあった。

転倒事故に関しては、居室内で転倒されている所を発見した事故が多く発生している事から、2025 年度は ICT 機器（センサー付きベッド）の導入を視野に入れ、未然に防ぐ事ができる環境整備に力を入れていく。

また、薬の事故に関しては「ガバナンスの強化」を施設全体として目標に掲げ、薬のみに限らず法令や施設内順守事項を確実に守りながら運営できる組織を作り上げていきたい。

Ⅱ 短期入所生活介護

① 稼働率

	2023 年度	2024 年度	前年比
稼働目標（平均）	75.0%	80.0%	
稼働実績	76.1%	82.8%	+5.7%
全体新規件数	131 件	126 件	-5 件
荒川区新規件数	114 件	118 件	+4 件
荒川区利用者数	4,851 件	5,507 件	+656 件

- ・稼働実績に関しては前年度比+5.7%とはなったものの、まだまだ従来のショートステイの役割を果たしているとは言えない状況にある。夏頃にかけて上昇し年末にかけ下降するといった傾向を踏まえながら、営業活動や館内における取組を考えていきたい。
- ・質の高い、利用して良かったと思っていただけるようなショートステイを目指すべく、単に外部への働きかけを行うだけではなく、内部にもしっかりと目を向けていく必要がある。より質の高いサービスを提供する事ができるよう努めていく必要があることから、改めて研修受講や会議開催の強化に向け取り組んだ 1 年でもあった。引き続き、職員の成長、ご利用者様の ADL、QOL の向上に向け取り組んでいきたい。

Ⅲ 居宅介護支援事業所

・毎月のミーティング（施設長 介護支援専門員 3 名）を必ず実施し、進捗状況や現状の確認を行ってきた。また、3 名の介護支援専門員により、法令に基づいた内容でプラン作成等を行えているか等の相互チェック機能を取り入れた事により、法令に基づいた運営ができている。

- ・年間介護給付…1,161 件（月平均 89.0 件 前年度比+0 件）
- ・年間予防給付…271 件（月平均 21 件 前年度比-34 件）
- ・年間認定調査…15 件

2024 年度当初は予防の指定を受けていく予定であったが、現時点で進行していない状況。介護給付は前年度とほぼ同数であったが、予防件数は-34 件となっている。

認定調査数に関して、新型コロナウイルス流行後は外部機関への委託がメインとな

っていたものの、2024 年度は数件ずつ件数が上昇してきている。

(4) 災害対策

I 安否確認訓練

非常災害時の職員の安否確認として、セコム安否確認システムをグループ全体で運用。2024 年度からは BCP 運用が義務付けとなる事から、改めて全職員に対して安否確認システムの説明を行った。

また、新入職員に関しては入社時にセコム安否確認への登録を実施し入社時研修の際に登録の状況を確認できるようになった。、全職員が災害時に迅速に対応できるよう訓練も含め日頃から災害への意識を高めていきたい。

II 防災・避難訓練等

① 第 1 回：2024 年 6 月 12 日～14 日

- ・昼間の火災を想定した避難訓練 参加職員約 50 名

② 第 2 回：2024 年 11 月 10 日

- ・尾竹橋町会合同避難訓練 火災発生から公園までの避難訓練 参加職員 6 名
町内の方々に実際に火災が発生した場合の避難誘導方法をお伝えし、建物から隣の避難区域への避難という流れで実施。全体で約 200 名程度が参加するという非常に大規模な訓練であったが、災害時は多くの人手が必要となってくるため有意義な訓練であったと感じている。

③ 第 3 回：2025 年 3 月 25 日～27 日

- ・夜間想定 夜間の火災を想定した避難訓練 参加職員 10 名

(5) 地域への取り組み

I おたけ祭りの実施

新型コロナウイルスにより行えていなかったおたけ祭りを 5 年ぶりに実施した。施設周辺の地域の皆様にもお声がけを行い、当日は多くの方にご参加いただいた。また、ボランティアの皆様にもお越しいただけた事で、より地域の方々との交流の場になったのではないかと考えている。

2025 年度も引き続き地域に開かれた施設となり、より多くの皆様に楽しんでいただけるようなお祭りを開催していきたい。

社会福祉法人エンゼル福祉会
渋谷区かなみの杜・渋谷
2024 年度事業報告書

(1) 人材定着と人材育成

- ① 2024 年度離職者数は 13 名。(2023 年 36 名) 退職者は 2023 年度と比較して減少した。減少した理由として、新規入職者に対して、適切に O J T 指導が実施できるよう、おたけの郷へ体験的な研修を実施した。3 か月間の O J T システムが活用できるよう研修録の使用方法、面談の機会等を増やした。退職者は減少傾向にあるため、一定の効果が出たと考えている。引き続き、O J T 指導を適切に実施していく。
- ② 2023 年度週休 3 日制が理由に退職した職員が一定数いたことから、週休 2 日制のフロアを 1 フロア導入した。結果として、10 時間勤務が身体上、私生活上合わない等を理由に退職したい旨の職員が 2 名いたが、週休 2 日制のフロアに異動し継続して勤務が出来ている。現状、1 フロアのみの導入であるが、職員の話を含み取りながら他フロア導入も検討をしていく。
- ③ 委員会主催の研修会をオンライン・動画配信にて実施した。
- ④ 週 1 回月曜日 9 時より各フロア・部署がオンラインにて集まり施設からの伝達事項やフロアの悩み事、事故の共有をする時間を設けた。また、フロア会議・各委員会も適切に開催できている。

(2) 雇用について

入退職状況【年間】

			2024年度													合計
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
介護職員	正規	入職	2	1	3	0	1	0	1	2	0	1	1	1	13	
		退職	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	1	5	
	非正規	入職	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	4	
		退職	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	2	0	6	
看護職員	正規	入職	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	3	
		退職	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	
	非正規	入職	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
		退職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
生活相談員		入職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		退職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
介護支援専門員		入職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		退職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
管理栄養士		入職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		退職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
フロア責任者		入職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		退職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
事務 運転 清掃	正規	入職	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
		退職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	非正規	入職	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
		退職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
全体		入職	4	1	3	2	1	1	1	3	1	2	2	2	23	
		退職	1	0	0	2	1	0	1	1	1	1	3	2	13	

- ① 職員数については、2024 年度は 23 名入職し 13 名退職。10 名増加となった。
- ② 採用について、インターネット媒体による応募が多かったが、ハローワーク、ホームページ、職員紹介など直接面接を申し込みされる方も多くみられた。2025 年度は、正規職員は不足分の採用と非常勤採用を積極的に採用していく方向性。

(3) 災害等の訓練について

I 他団体との連携

- ① 渋谷区かなみの杜・渋谷には、福祉生活事務所と地域包括支援センターが併設している。そのため、
2 団体と共同して総合消防訓練を実施し、特養フロアなどの避難経路などを確認する機会を設けた。
10 階建ての建物であるため、災害時の避難は階段を要することになり、人手が必要となる。そのため、車いすを使用する方の避難方法なども訓練内容に組み込んだ。

(4) 特別養護老人ホームの入居者支援の考え方

入居者の有する能力を最大限に発揮し、その方の暮らしの継続を支援します。入所者の暮らしに合わせた生活空間等の環境設定をする事で、「出来ることは自分で行う」「出来ないところは入居者同士で支え合う」といった「自助」「互助」の概念に基づいた支援を展開していきます。入居者自身(同士)が、生活の主体であり、施設の生活スケジュールではなく、入居者の生活軸を基に組み立てていきます。

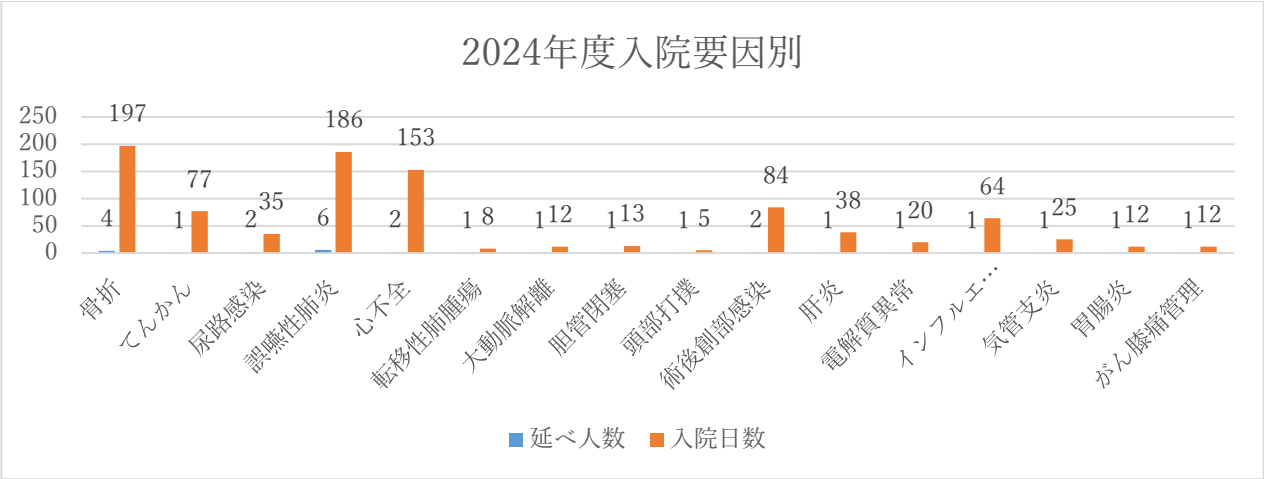
I 目標評価

- ① 年間目標稼働率 93.6% → **実績 87.1%**

2024 年 9 月にご案内できていないユニットがあったが、人員の体制が整ったため入居者をご案内した。すべてのユニットに入居者をご案内する形となったが退所が多く（入院から医療的処置が多く療養型へ等）入所が追い付かない状態になり目標稼働率に届かなかった。2025 年 4 月現在、空床は 1 床となっており、2025 年度は目標稼働率達成に向けて動いている。

- ② 防げる入院の減少 入院日数 700 日以内 ➡ **987 日**

2024 年度入院総日数は 987 日。入院の内訳として、骨折による入院が 197 日、誤嚥性肺炎 186 日、心不全 153 日であった。入院日数の内訳にて昨年度と比較して増加してしまった項目もあれば減少した項目もあった。下半期から入院者数、日数が増加したため、フロア・医務にて入院の分析を実施していたが、フロア会議に看護師が参加して一緒に入院分析をする時間を設けた。結果としてはまだ見えていないこと、入居者の状態もあるため予防することが困難なケースもあるが、肺炎、骨折、心不全等を中心に入院日数を予防していく。



フロアごとの入院日数

2024年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5階	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	6	17
6階	0	0	0	0	8	6	8	0	27	62	40	26	177
7階	12	31	11	18	8	33	45	37	62	73	35	10	375
8階	0	0	0	0	0	19	54	13	0	0	12	0	98
9階	0	25	7	0	0	0	0	0	0	0	0	9	41
10階	18	21	0	0	1	26	40	62	19	31	21	22	261
合計	30	77	18	18	26	84	147	112	108	166	119	73	978

③ 職員育成

毎月行う研修会、委員会主催の研修については、動画配信を各個人ごとに研修を受ける形とした。
また、ユニットリーダー研修参加 1 名、不適切なケアについての研修会 3 名、外部研修に参加した。
研修を基に、施設内へ伝達研修を実施する予定である。

④ 看取り介護の推進

2024 年度は看取り件数 8 件（2023 年度 12 件）うち家族が最後の時間立ち会うことが出来たケース
へ 3 件であった。（2023 年度 6 件）（立ち合いを希望されたご家族 5 組であった）
介護からの吸状態や状態が看護へ報告があり、家族へ適切な報告が出来つつある。また、眠りスキ
ャンを活用することで呼吸状態もデータ分析ができるため予測する上での必要な根拠となった。現
在、看取り介護の加算算定には至っていないが、現状、家族への定期的な連絡、研修体制等が整備で
きるため、2025 年度中より看取り介護加算について算定予定である。

⑤ 見守り支援機器の有効活用

現在、見守り機器としてアイホン製の見守りカメラ、眠りスキャンを導入している。見守りカメラ・
眠りスキャンを活用して、巡視回数を 5 回➡2 回に減少させたり、訪室せずカメラで確認すること
として訪室による入眠の妨げも予防することにも繋がった。看取り介護の方にも眠りスキャンを活

用することで、介護職員のメンタル的な不安解消にもつながっている。

⑥ 事故の削減

2024年度	総件数	転倒	転落	すりおち	誤薬	与薬忘れ	外傷	表皮剥離	低温やけど	誤食	誤嚥	離脱	その他
4月	13件	3件	2件	2件	1件	3件	1件	1件	件				
5月	10件	3件	1件		件	件	2件	2件	件	1件			1件
6月	12件	4件			2件	1件	1件	3件					1件
7月	24件	8件	1件		1件	6件	6件	件					2件
8月	16件	3件	1件	1件	1件	2件	4件	2件			1件		1件
9月	18件	3件	3件		1件	4件	2件	2件					3件
10月	19件	6件	2件		4件	3件	4件						
11月	18件	1件	7件	2件		1件	5件			1件			1件
12月	20件	6件	1件	2件	1件	2件	7件						1件
1月	17件	10件			1件		3件	1件		1件			1件
2月	13件	5件	1件		1件	1件	3件						2件
3月	20件	4件	5件		5件	1件	4件						1件
合計	200件	56件	24件	7件	18件	24件	42件	11件	件	3件	1件	件	14件

2024 年度事故件数 200 件。内訳は上表通り。転倒事故が一番多く、続いて外傷の事故が多く発生した。事故防止委員会を中心に、転倒・転落・すり落ちに関して、対策などに注力してきたが件数が減少するまでつながらなかった。2025 年度は事故発生から検討会を実施し、事故検証・対策立案に施設全体で取り組んでいく。

⑦ 新型コロナウイルス感染症予防

感染症対策を日常的に継続的に実施した。ガウンテクニックについては、職員全体へ実施訓練を実施し、看護師を中心にゾーニングの勉強会を実施した。2024 年 7 月、2025 年 1 月にフロアにて新型コロナウイルス陽性者が判明したが、他フロアへの感染は予防でき、クラスターを予防することは出来た。

(6) 高齢者在宅サービスセンターにおける利用者支援の考え方

利用者が「尊厳と自立」に満ちた生活を送るため、安心して利用できる信頼度の高い介護サービスを提供する。

利用者一人ひとりの人格を尊重し、様々な疾病を患い介護が必要な状態になっても、利用者自身の「意思」を汲み取り、そして可能な限りその「意志」を尊重し、自己決定に向けた支援を行う。

利用者の住み慣れた地域及び居宅での生活が安心して継続できるよう、日常生活で必要となる動作の機能回復に繋がる活動を提供し、自立支援・在宅生活の継続に向けたサービスを推進し、ご家族や担当の介護支援専門員、他の居宅サービスや医療サービス等との連携や事業所内での情報共有を行い、利用者の心身機能の維持・向上に繋げることとしたい。

① 地域に認められ、安定した経営をするための稼働率の確保

I 一般型通所介護

目標稼働率 63.0% → 51.2%

通所介護(一般)	定員	35	名	2024年度月別実績データ									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日数	26	27	25	27	27	25	27	26	26	27	24	26	313
定員数	910	945	875	945	945	875	945	910	910	945	840	910	10,955
目標利用人数	478	507	480	530	541	512	564	554	565	598	542	605	6476
利用実績数	442	522	427	447	456	438	456	433	479	514	520	586	5720
平均利用者数	17.0	19.3	17.1	16.6	16.9	17.5	16.9	16.7	18.4	19.0	21.7	22.5	17.9
目標稼働率%	52.5%	53.7%	54.8%	56.1%	57.2%	58.5%	59.7%	60.9%	62.1%	63.3%	64.5%	66.5%	63.0%
月別稼働率	48.6%	55.2%	48.8%	47.3%	48.3%	50.1%	48.3%	47.6%	52.6%	54.4%	61.9%	64.4%	51.2%
計画	442	522	427	447	456	438	456	440	479	514	539	586	
中止	154	91	97	110	139	130	122	111	136	188	111	148	
実施・中止 合計	596	613	524	557	595	568	578	551	615	702	650	734	
新規利用者	3	4	6	4	3	0	0	9	8	4	8	7	56
契約解除者	0	2	7	0	1	1	3	2	1	1	4	1	23
登録者数	64	67	71	73	66	65	65	69	74	82	76	85	71.4
平均介護度	2.79	2.87	2.5	2.8	2.8	2.9	2.8	2.7	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8

稼働率は目標に対して 80%の達成率となり未達だった。

新規利用者の受け入れを継続的に進めたものの、新規利用者による利用増加に対して利用中止による利用減少の方が上回った結果、上半期は利用実績が横ばいとなった。

下半期は近隣の通所介護事業所の閉鎖に伴う新規利用者の相談が増えた。職員の採用や業務の効率化を図った結果、稼働率を伸ばすことができた。

新しい居宅介護支援事業所との繋がりができたことで、次期以降につながるように対応していく。

○ 車両事故について

- ・ 2024 年度に通所介護事業所の送迎に掛かる車両の運行において車両事故が 11 件発生した。8 月にはブレーキとアクセルの踏み間違えによる重大事故により地域の方に多大なご迷惑をおかけしてしまった。
 - ・ かなみの杜において過去に事故があった職員 4 名は 11 月 18 日と 22 日にコヤマドライビングスクールにて事故違反者講習を受講し、運転技術の確認と運転手各々の注意すべき点の確認をした。
- 次年度は車両事故を 0 にすることを念頭に置いて各種の対策を取っていくことにする。

○ ICT 機器導入支援事業への参加

- ・ 渋谷区が主催した ICT 機器導入支援事業に参加協力した。送迎表自動作成ソフト (DriveBoss)、インカムシステム (BONX)、アシストスーツを試験した。検証の結果、送迎表自動作成ソフトについて使用した際の効果が特に高いと認められた。

Ⅱ 認知症対応型通所介護

目標稼働率 20.5% → 14.8%

通所介護(認知症対応型)	定員 12 名												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日数	26	27	25	27	27	25	27	26	26	27	24	26	313
定員数	312	324	300	324	324	300	324	312	312	324	288	312	3,756
目標利用人数	31	32	45	45	58	57	71	72	81	84	95	94	766
利用実績数	47	50	49	43	48	38	43	45	45	50	47	49	554
当日キャンセル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
目標平均利用者数	1.2	1.2	1.8	1.7	2.2	2.3	2.6	2.8	3.1	3.1	4.0	3.6	2.6
平均利用者数	1.8	1.9	2.0	1.6	1.8	1.5	1.6	1.7	1.7	1.9	2.0	1.9	1.7
目標稼働率%	10.0%	10.0%	15.0%	14.0%	18.0%	19.0%	22.0%	23.0%	26.0%	26.0%	33.0%	30.0%	20.5%
月別稼働率	15.1%	15.4%	16.3%	13.3%	14.8%	12.7%	13.3%	14.4%	14.4%	15.4%	16.3%	15.7%	14.8%
新規利用者	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
契約解除者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
登録者数	3	3	3	3	3	3	3	3	5	5	5	5	3.7
平均介護度	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.9	4.9	4.9	4.9	4.6

認知症対応型の利用実績は横ばいの結果となり、未達だった。
利用希望の相談件数が少なかった。
次期以降で稼働率を大きく改善していく必要がある。積極的な営業活動など必要な対策を取る。

Ⅲ 総合事業通所型サービス A

目標稼働率 56.7% → 14.2%

通所介護(サービスA)	定員 20 名												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日数	22	23	20	23	22	21	23	21	20	20	20	21	256
定員数	440	460	400	460	440	420	460	420	400	400	400	420	5,120
目標利用人数	132	161	160	207	220	252	322	294	280	280	280	294	2882
利用実績数	61	70	67	74	61	61	62	57	58	56	41	59	727
当日キャンセル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
目標平均利用者数	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	11.3
平均利用者数	2.8	3.0	3.4	3.2	2.8	2.9	2.7	2.7	2.9	2.8	2.1	2.8	2.9
目標稼働率%	30.0%	35.0%	40.0%	45.0%	50.0%	60.0%	70.0%	70.0%	70.0%	70.0%	70.0%	70.0%	56.7%
月別稼働率%	13.9%	15.2%	16.8%	16.1%	13.9%	14.5%	13.5%	13.6%	14.5%	14.0%	10.3%	14.0%	14.2%
新規利用者	0	1	1	0	0	0	0	3	2	0	0	0	7
契約解除者	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3
登録者数	19	20	21	20	20	20	20	22	24	24	24	24	21.5

総合事業の実績は横ばいで推移した。
一般通所介護と認知症対応型通所介護の新規利用者受け入れを進めていくことに注力している。

② 困ったときに頼ってもらえる事業所づくり

地域のニーズに合わせて事業所としてできる限りの対応を取って運営を進めた。
特に医療依存度の高い方は近隣のデイサービスから利用を断られることもある。インスリン注射が必要な方（1名）、経管栄養による栄養剤の注入（2名）、バルーン留置カテーテル（2名）やストマーを装着されている方（1名）を断ることなく受け入れた。
医療機関との連携についても積極的に行っており、ケアマネジャーと確認を取りながら医療機関の医師に連携することで利用者の容体悪化に対して早期に発見することができた事例もあった。
また、認知症実践者研修修了者を2名増員することができた。その職員が中心となって対応の方法を検討したことによって認知症を抱えている方でも認知症の周辺症状を発現させることなく穏やかに過ごすことができた。
いずれの対応についてもケアマネジャーと連携をすることを意識した。
引き続き医療依存度の高い方と認知症を抱えている方への対応力の向上に注力していく。

IV 居宅介護支援事業者

- ① 給付管理件数 30 件/月（介護予防（通減率 1/3 含む）毎月達成
2024 年度を通して介護・予防合わせた月平均の給付管理件数は 32 件と目標達成となった。R6 年 9 月に事務職員の採用による事務作業の負担の軽減、業務の効率化が図れたことが要因となった。
- ② 認定調査、年間 200 件達成
2023 年度の認定調査の実施件数 199 件を見込んでいたが、2024 年度は 179 件、月平均 15 件の実施。クレーム、苦情なく安定した事業運営となった。
- ③ 内外部監査等において指摘事項が存在しない事業所の運営
R6 年 12 月の内部監査では、この 4 月から法令上義務化された研修・訓練、委員会等に関する指摘事項が散見される 34 件の指摘がある結果となった。改善に取り組み信頼できる事業所の運営を目指す。

2024年度 居宅介護支援事業所実績

介護給付件数	人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
目標給付数	1	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27
2024給付管理件数	1	28	27	26	25	29	31	33	33	33	33	33	34
予防/地域支援事業		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2024委託費請求件数	1	6	7	7	8	6	7	7	6	6	5	5	5
介護/予防合計常勤換算数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
目標給付数	1	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
2024一人当り実績数	1	30.0	29.0	28.0	27.0	31.0	33.0	35.0	35.0	35.0	34.0	34.0	35.0
認定調査		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2024 認調委託件数	1	12	23	14	12	8	11	14	13	20	23	12	17

V 介護予防総合事業（元気すこやか事業）

渋谷区からの委託事業であり、創作活動や運動などを行う講座を開催し、高齢者が要支援・要介護状態になることを予防し、高齢者の健康づくりを促進するものである。渋谷区内に住所を有する 65 歳以上で、自分で通所可能な方が対象。

特段、問題なく 2024 年度を経過することが出来た。新たに、オンライン講座も増え、新規の講座開設などもあり順調に事業は経過している。

- ・運動講座

エアロビクス、ヨガ、健身操、太極拳、ピラティス、ポールウォーキング、健康体操など

- ・文化講座

英会話、詩吟、書道、水墨画、水彩画、コーラスなど

① 一般社団法人 SmileSpirit との連携での事業（渋谷区委託事業）

2021 年 6 月上半期、下半期に分けて事業実施。かなみの杜職員と一般社団法人 SmileSpirit（渋谷区内でシニアチアダンス等の活動をしている団体一部委託）と連携して実施。緊急事態宣言やまん延防止の期間について渋谷区と協議し開催を控えた時期もあったが、大きなトラブルもなく 1 年を経過することが出来た。